



第 24 回

地球環境問題と人類の存続に関するアンケート

調査報告書

2015 年 9 月

公益財団法人 旭硝子財団

# 目次

はじめに .....	1
I. 調査の概要 .....	2
II. 調査結果の概要 .....	3
III. 調査結果 .....	4
1. 人類存続の危機に関する認識—環境危機時計 <sup>®</sup> .....	4
A. 環境危機時刻 .....	4
B. 念頭においた項目 .....	7
2. 地球環境問題に関するご意見 .....	13
IV. データブック .....	27
V. 調査票 .....	34

## はじめに

本報告書は、当財団が1992年より実施している「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の2015年度の調査結果をまとめたものです。本年度も、より多くの方々へ世界の環境専門家の地球環境の現状認識をお伝えしてゆきたいと存じます。

今年のお返事数は皆様のご協力の御陰で2,081件となり、2年連続で2,000件を超える事が出来ました。世界のほとんどの地域をカバーする環境アンケート調査として、皆様へ今年も御報告が出来ることに改めてお礼を申し上げます。

本年度から新たな継続調査項目として、環境危機時刻の推移に対する回答者の年齢層の影響を分析し報告いたします。年度毎の環境危機時刻の変化の原因を探る試みとして興味深い結果が出せるよう努力して参ります。

既におなじみに成りましたバブルグラフによる世界の地域毎の“念頭においた項目”と“危機時刻”の関連性、その年度変化のレポートを継続してまいります。

昨年度と同様に、記述回答は弊財団の webサイトに掲載することになりました。従いまして、問2-2-3、問3（自由記述）は、財団のホームページ (<http://www.af-info.or.jp/questionnaire/result.html>) をご参照ください。

われわれは、本環境アンケートを通じて環境有識者のみならずより多くの方々に環境への関心を持って頂くことにより、地球環境問題の解決に微力ながら貢献することを切に願っています。

ご回答頂いた皆様へもう一度心からの感謝とお礼を申し上げます。また皆様方からの貴重なご助言・ご指導を今後ともたまわりますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

2015年9月

公益財団法人 旭硝子財団

# I. 調査の概要

調査時期 : 2015年4月から6月  
調査対象 : 世界各国の政府・自治体、NGO/NPO、大学・研究機関、企業、マス・メディア等で環境問題に携わる有識者(旭硝子財団保有データベースに基づく)  
送付数 : 25,306 (海外 24,070 + 国内 1,236)  
回収数 : 2,081  
回収率 : 8.2%

## 属性別の回収結果

【地域】	回収数	構成比 (%)
日本	452	21.7
海外	1629	78.3
<b>全世界 合計</b>	<b>2081</b>	<b>100</b>
アジア (日本含む)	1116	53.6
オセアニア	88	4.2
北米	238	11.4
中米	51	2.5
南米	115	5.5
西欧	242	11.6
アフリカ	132	6.3
中東	41	2.0
東欧・旧ソ連	58	2.8
<b>全世界 合計</b>	<b>2081</b>	<b>100</b>
途上地域	935	45.0
先進地域	1146	55.0
<b>全世界 合計</b>	<b>2081</b>	<b>100</b>
【性別】		
男性	1483	71.3
女性	589	28.3
不明	9	0.4
<b>全体合計</b>	<b>2081</b>	<b>100</b>
【勤務先】		
中央政府	121	5.8
地方自治体	120	5.8
大学・研究機関	734	35.3
NGO/NPO	467	22.4
企業	298	14.3
ジャーナリズム	39	1.9
その他	296	14.2
不明	6	0.3
<b>全体合計</b>	<b>2081</b>	<b>100</b>

\* 日本、北米、西欧、韓国、台湾、オーストラリア、シンガポールを先進地域、その他の地域を途上地域とした。

\* 本報告書における分析の百分率のベースは、特に説明がない限り、単一回答の設問については回収票数、複数回答の設問については有効回答の延回答件数を使用している。

\* 数値は小数点第1位もしくは第2位を四捨五入してある。

\* 延回答件数ベース：回収票数ではなく、その質問に対してなされた回答の延件数を基数とする。

## II. 調査結果の概要

### 1. 人類存続の危機に関する認識—環境危機時計<sup>®</sup>

- ・日本の環境危機時計<sup>®</sup>の平均は9時9分となり昨年に比べ5分進んだ。
- ・世界の環境危機時計<sup>®</sup>の平均は9時27分となり昨年比で4分進んだ。
- ・世界全体の環境危機時刻を決定する際の最も念頭に置いた項目は、昨年に続いて気候変動が最多数を占め、次いで僅差で環境汚染、水資源、生物多様性、土地利用の順に続いた。
- ・同じく世界全体の環境危機時刻を決定する際の最も念頭に置いた項目を、危機時刻順に並べると、生物多様性と人口が同時刻の一番進んだ9時36分を示し、続いて環境汚染、同時刻でライフスタイル、環境と経済の順に並んだ。

### 2. 回答者年齢による環境危機時刻の推移(本年度から加わった新たな継続調査項目)

回答者の年齢層に注目し、2011年から2015年間の世界の危機時刻の経時変化をレポートした。

- ・回答者の年齢が上がるにつれてより進んだ危機時刻が報告される傾向にある。
- ・2011年から2015年にかけての危機時刻の変化のかなりの部分は、60代未満の回答者により生じていることが判明した。

### III. 調査結果

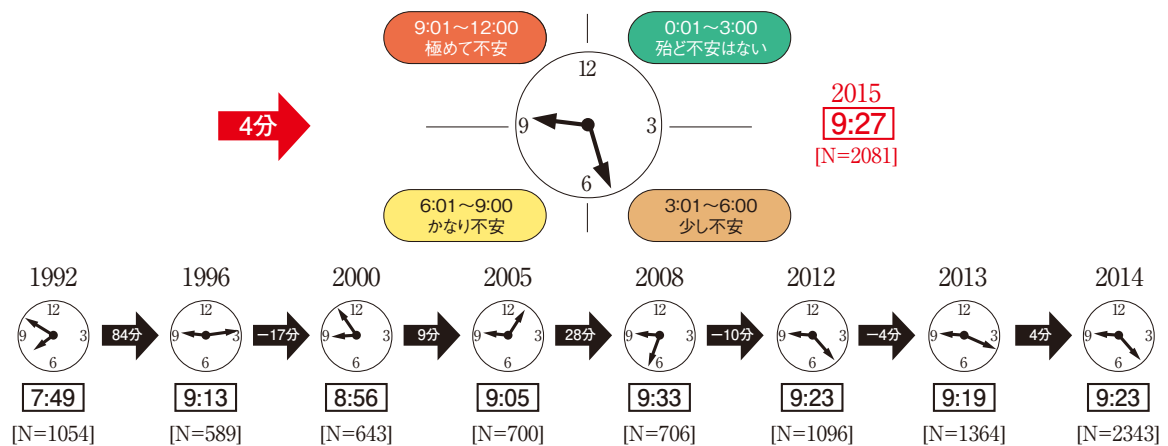
#### 問1. 人類存続の危機に関する認識—環境危機時計<sup>®</sup>

地球全体の問題を念頭に置きながら、あなたがお住まいの国または地域における環境問題を考える上で重要な項目を3つ選んで1位～3位の順位付けをし、それぞれ時計の針に例えて0:10～12:00の範囲で〇〇時〇〇分と教えてください。時刻は便宜上、10分単位でご記入下さい。その他の項目をご提案される場合には、「12. その他」の欄にご記入下さい。

\*危機時刻の決定法について 危機時刻を決めるにあたり、まず考慮した項目の内から重要度の順番に上位3位を決めます。次にそれぞれの項目の危機時刻を決めます。最後に、項目の1位から3位の時刻の加重平均(1位:50%、2位:30%、3位:20%)として環境危機時計<sup>®</sup>の時刻を決定します。

#### A-1 環境危機時刻

##### 危機時刻の経年変化

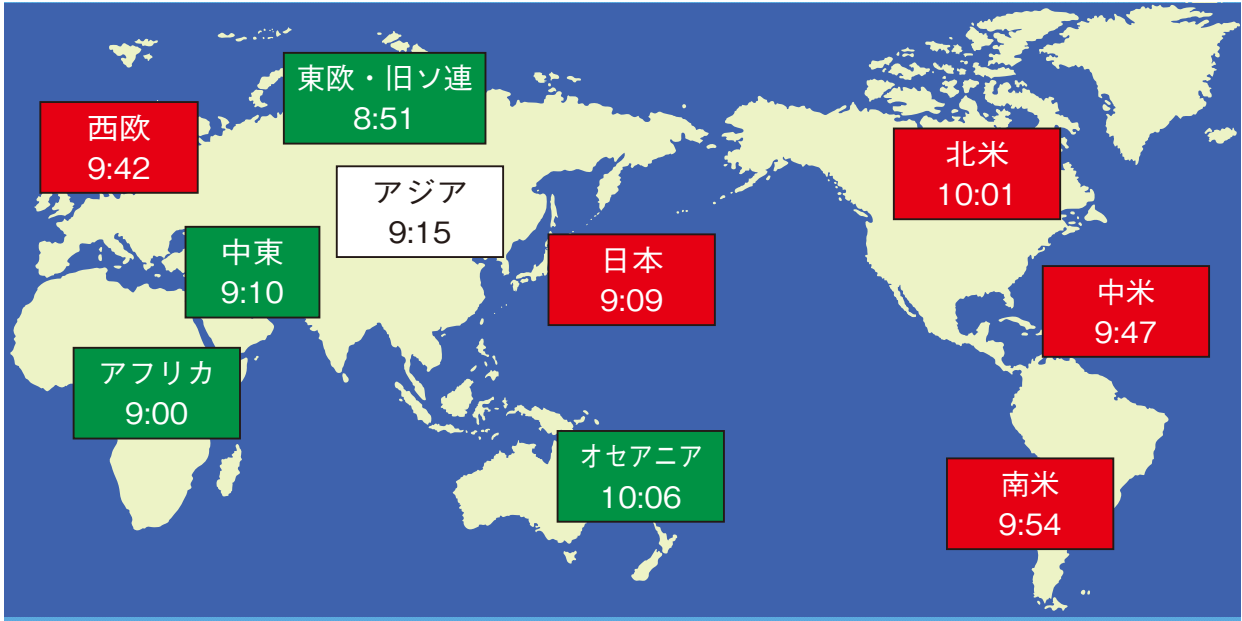


	危機時刻の推移			危機時刻の進行(分)			
	'05	→	'14	→	'15	'05 → '15	'14 → '15
全世界	9:05	→	9:23	→	9:27	+22	+4
日本	9:07	→	9:04	→	9:09	+2	+5
アジア (日本含む)	9:15	→	9:15	→	9:15	±0	±0
オセアニア	9:18	→	10:08	→	10:06	+48	-2
北米	8:54	→	9:55	→	10:01	+67	+6
中米	9:08	→	9:12	→	9:47	+39	+35
南米 (中南米)		→	9:23	→	9:54	+46	+31
西欧	8:43	→	9:33	→	9:42	+59	+9
アフリカ	9:03	→	9:09	→	9:00	-3	-9
中東	9:18	→	9:21	→	9:10	-8	-11
東欧・旧ソ連	8:26	→	8:59	→	8:51	+25	-8
途上地域	*	→	9:21	→	9:26	*	+5
先進地域	*	→	9:26	→	9:27	*	+1

昨年と比べて赤は針が進んだ時刻、緑は針が戻った時刻

- ・本年度の環境危機時計<sup>®</sup>の世界平均は昨年度の9時23分から4分進み9時27分を記録した。
- ・日本の危機時計の平均は9時9分となり、5分進んだ。

### 各地域の危機時刻



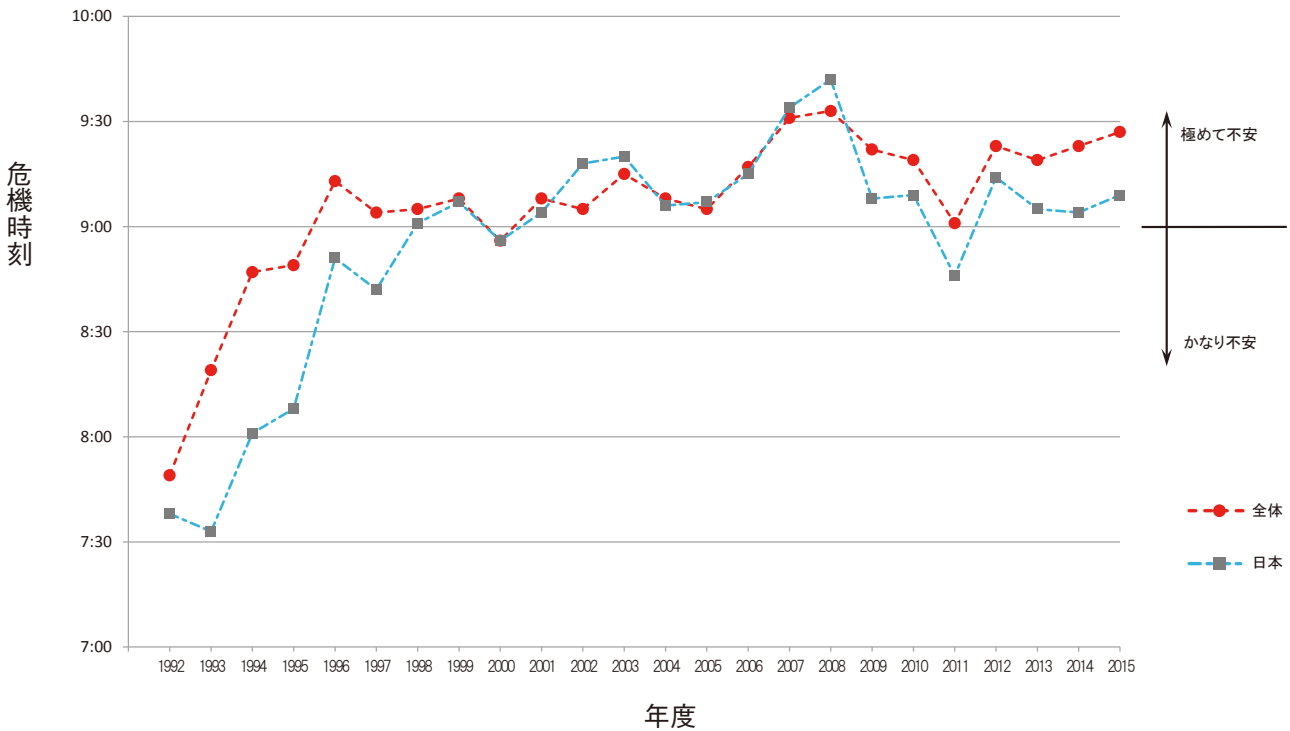
■ は昨年より時刻が進んだ地域・国  
■ は昨年より時刻が戻った地域・国  
□ は昨年と時刻が同じ地域・国

### 環境危機時刻の推移

1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
7:49	8:19	8:47	8:49	9:13	9:04	9:05	9:08	8:56	9:08	9:05	9:15	9:08	9:05	9:17	9:31	9:33	9:22	9:19	9:01	9:23	9:19	9:23	9:27

(全体)

調査開始以来、■は危機感が最も低く、■は最も高い



## A-2 回答者の年齢層による環境危機時刻の推移(2011～2015)

- ・ 回答者の年齢が上がるにつれてより進んだ危機時刻が報告される傾向にある。
- ・ この期間の危機時刻の変化のかなりの部分は、60歳代未満の回答者により生じていることが判明した。(下記、表およびグラフ参照)

### A-2-1 世代毎の環境危機時刻の動き

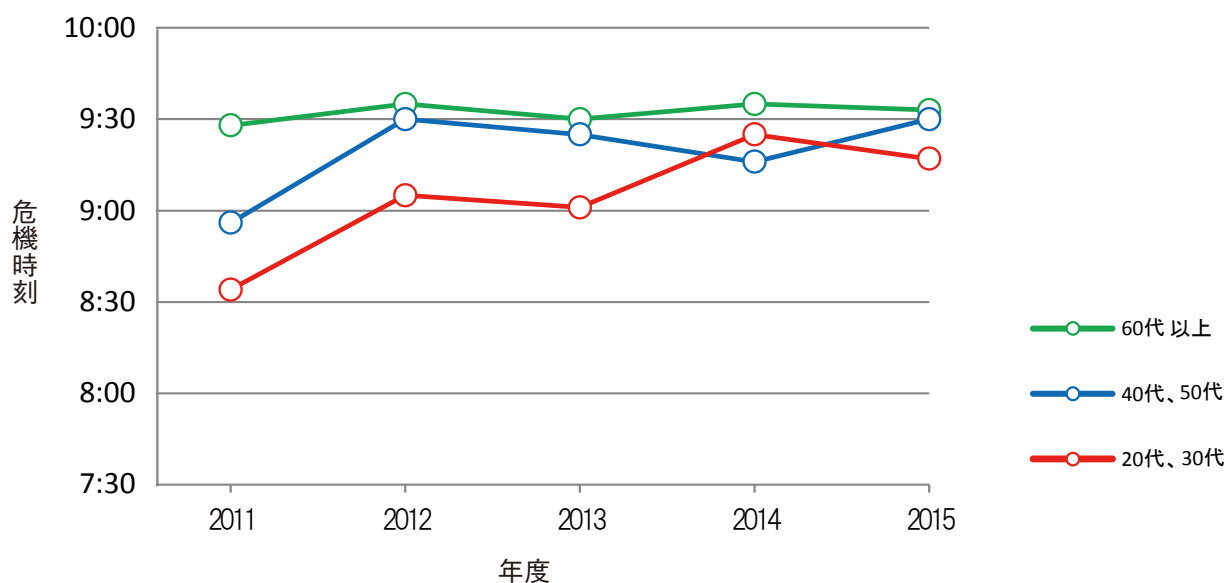
- ・ 60歳以上の危機時刻は、全世代で最も進んだ9時28分～9時35分の間ではほぼ安定して推移している。
- ・ 40～60歳未満の危機時刻は、8時56分(2011) から1年で9時30分まで進みその後ほぼ安定している。
- ・ 20～40歳未満の危機時刻は、8時34分(2011) から9時17分(本年度)まで概ね上昇傾向にある。

#### 各世代の環境危機時刻への影響

- ・ 2011年から翌年にかけての危機時刻は9時01分から9時23分へと22分進んだが、この大部分は60歳未満の年齢層に寄与によるものである。
- ・ 2013年から翌年にかけての危機時刻は9時19分から9時23分へと4分進んだが、この大部分は20～40歳未満の年齢層の寄与によるものである。
- ・ 2014年から今年にかけての危機時刻は9時23分から9時27分へと4分進んだが、この全ては40～60歳未満の年齢層の寄与によるものである。

環境危機時刻の世代別推移

	2011	2012	2013	2014	2015
平均危機時刻	9:01	9:23	9:19	9:23	9:27
60代以上	9:28	9:35	9:30	9:35	9:33
40代、50代	8:56	9:30	9:25	9:16	9:30
20代、30代	8:34	9:05	9:01	9:25	9:17





## B 念頭においた項目

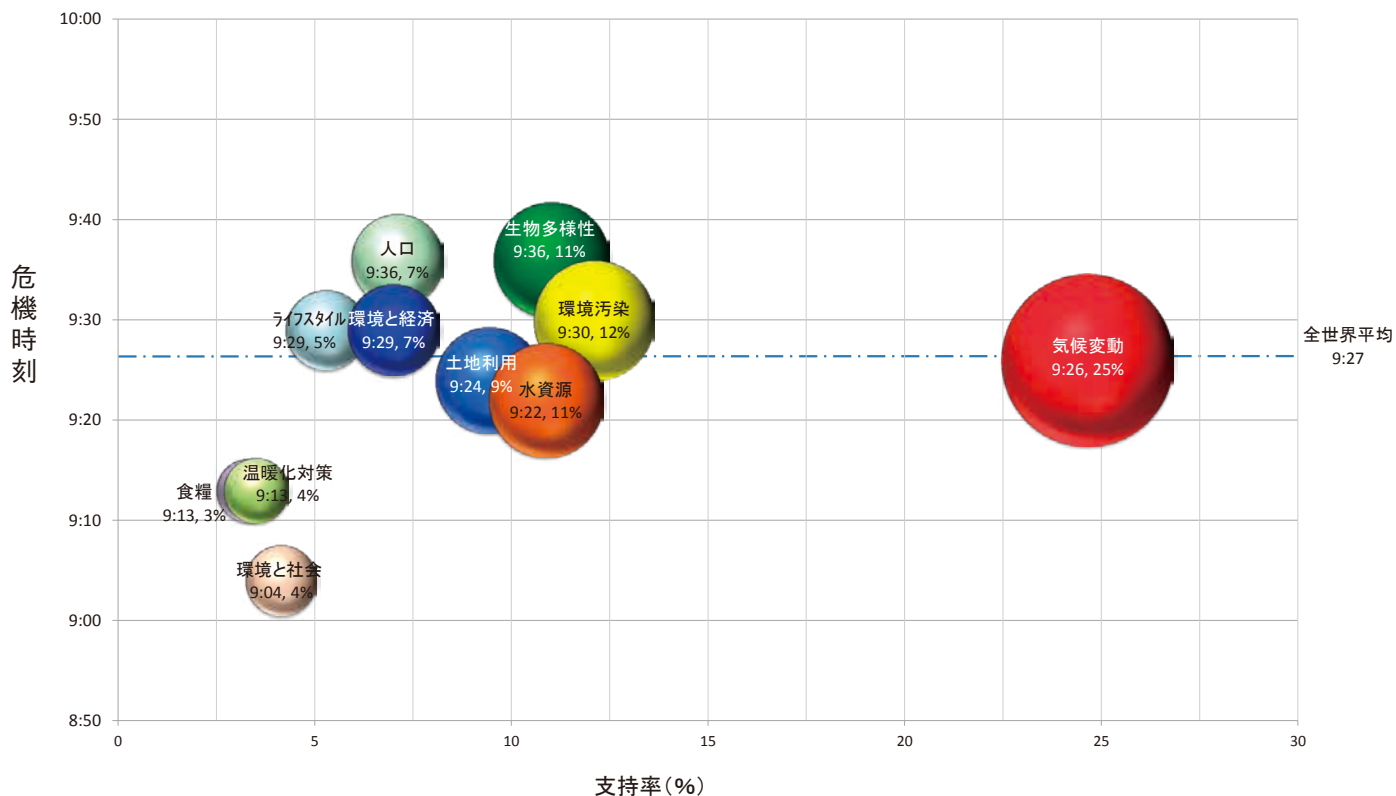
### 地球環境の状況

項目	あなたがお住まいの地域で観察されること（例）
1. 気候変動	大気中 <b>CO<sub>2</sub> 濃度</b> や <b>海洋酸性度</b> の増加 早ばつ、大雨・洪水、暴風雨、大雪、異常低温・高温、河川・湖沼の干上がり、砂漠化などの悪化(増加、頻発化、巨大化)
2. 生物多様性	<b>絶滅</b> する生物種(見かけなくなった生物)の増加
3. 土地利用	耕作地面積の増大 乱開発による森林破壊の拡大 過放牧による砂漠化や環境に配慮しない農業ないし土地利用の拡大 既存都市の拡大や新たな都市の発生
4. 環境汚染	過剰な <b>窒素</b> や <b>リン分</b> による富栄養化や化学物質などによる河川・海洋・土壌汚染の増加 浮遊物質や煤、 <b>化学物質</b> による <b>大気汚染</b> の増加
5. 水資源	枯渇や汚染による利用可能な <b>淡水</b> の減少
6. 人口	地域や国全体の人口増加 国全体の人口増減とは無関係な都市人口の増加
7. 食糧	陸や海の食糧資源の減少
8. ライフスタイル	エネルギー・資源多消費型スタイルからの転換
9. 温暖化対策	緩和策・適応策の進捗
10. 環境と経済	環境コストの経済システムへの組込(化石燃料への課税など)やTEEB(生態系と生物多様性の経済学)の採用などの進捗 グリーンエコノミーの実現、 <b>持続可能な経済発展</b> など、環境配慮型経済運営の進捗
11. 環境と社会	環境問題に対する認識や環境教育の進展 <b>貧困問題の解決</b> 、 <b>ガバナンス</b>
12. その他*	( )

青字は、プラネタリー・バウンダリー (Johan Rockstrom, et al : Ecology and Society 14 (2):32, 2009) 掲載の項目  
緑字は、SDGs(持続可能な開発目標)の重要項目

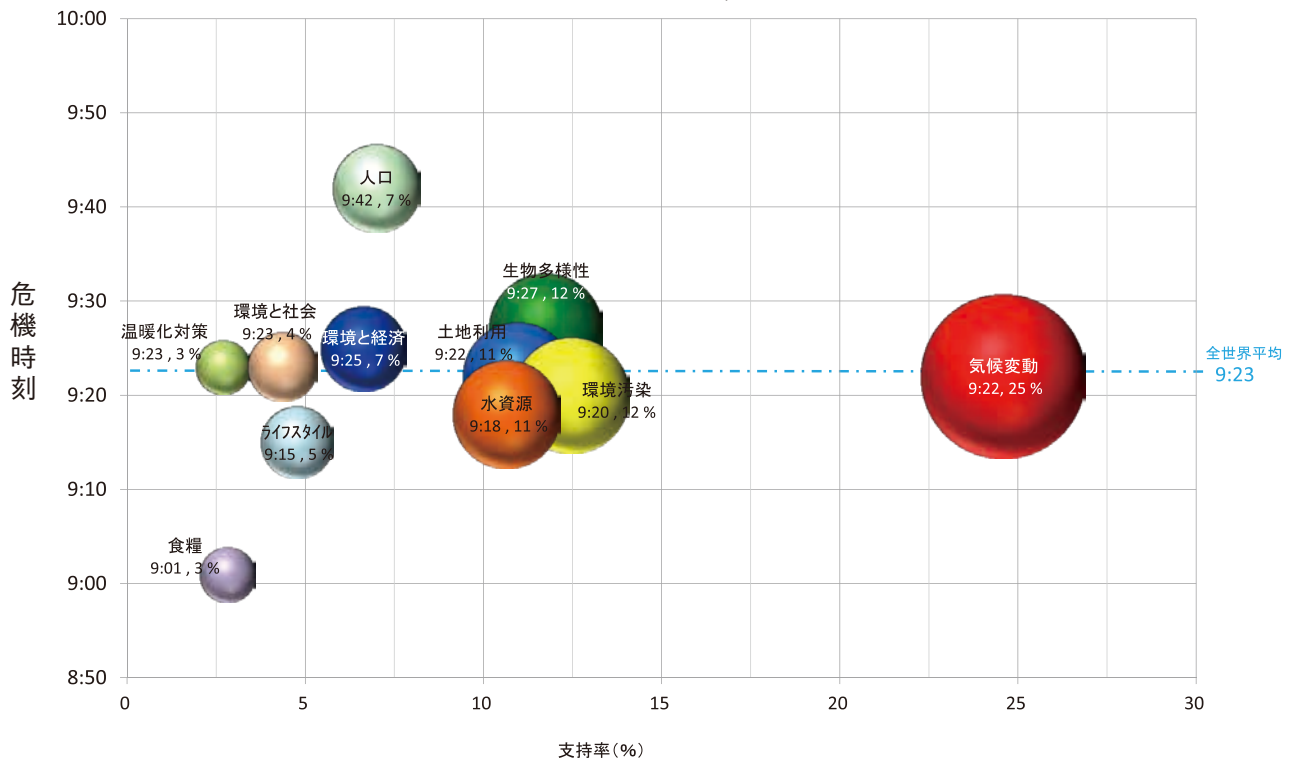
1) 念頭においた項目(第1～3位選択)の分布(項目ごとの危機時刻と支持率)

グラフ1. 本年度(2015年)全体

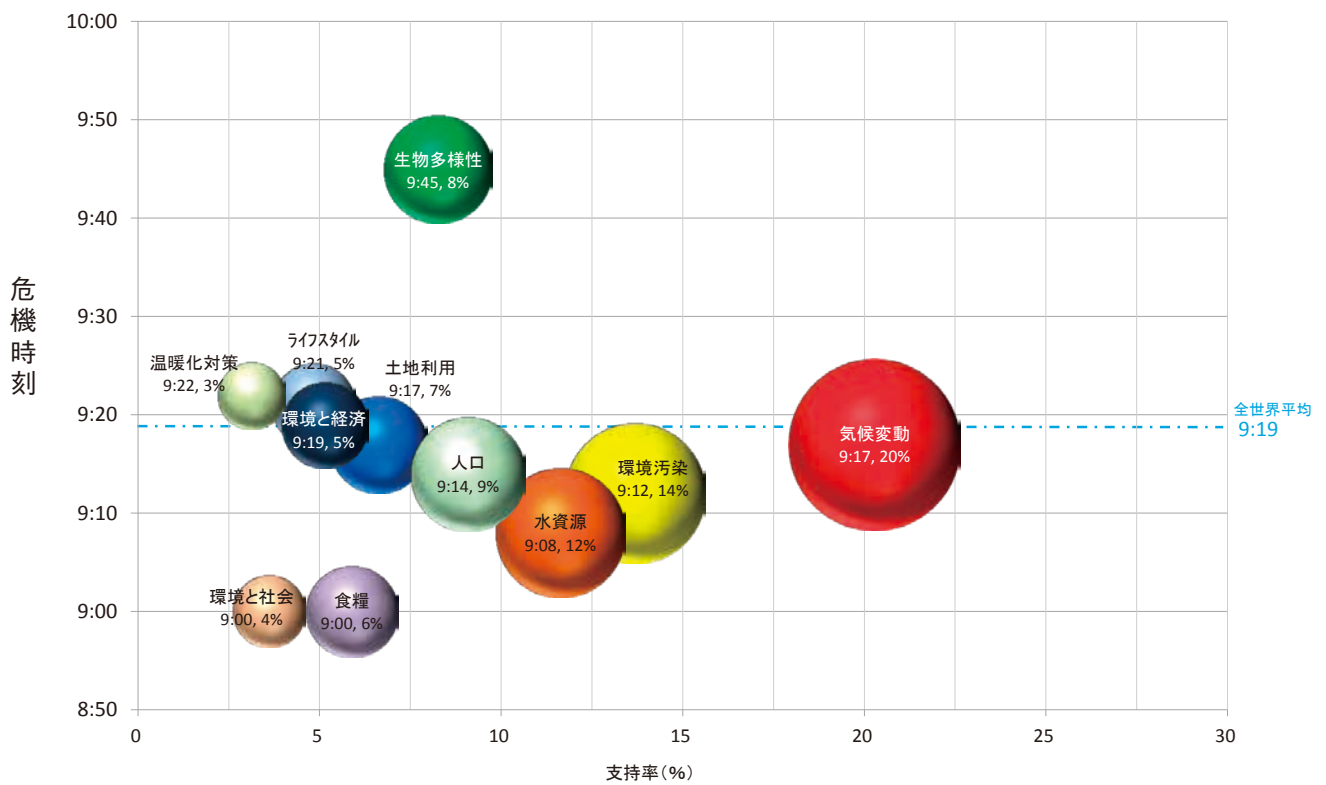


- 念頭においた項目を支持率の高い順に整理すると、世界全体では、“気候変動”（25%）が昨年に続き最多数を占め、次いで“環境汚染”（12%）、“生物多様性”（11%）、“水資源”（11%）、“土地利用”（9%）の順に並んだ。
- 念頭に置いた項目の中で、“生物多様性”と“人口”が9時36分を示し危機意識が際立っている。その他の項目の危機時刻の分布は9時04分～9時30分の間に分布している。

グラフ2. 2014年度 全体 (参考)

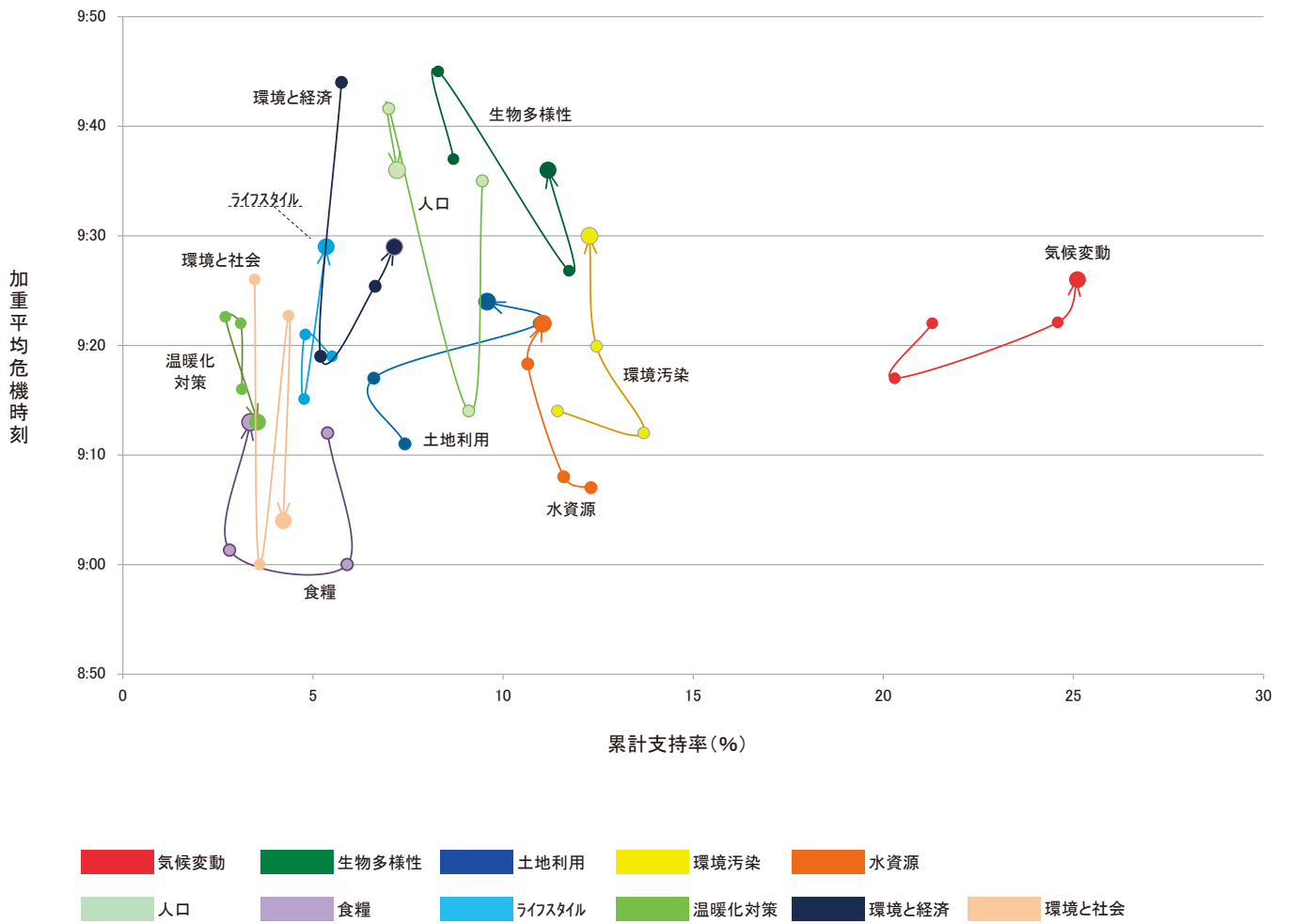


グラフ3. 2013年度 全体 (参考)



2) 危機時刻／支持率の分布の年次変化 —2012年度から2015年度

グラフ4



### 3) 各地域の念頭に置いた項目の選択傾向

	1. 気候変動	2. 生物多様性	3. 土地利用	4. 環境汚染	5. 水資源	6. 人口	7. 食糧	8. ライフスタイル	9. 温暖化対策	10. 環境と経済	11. 環境と社会
全体	25%	11%	9%	12%	11%	7%	3%	5%	4%	7%	4%
アジア (全)	25%	8%	6%	16%	10%	7%	5%	5%	5%	7%	4%
日本	32%	9%	5%	8%	6%	8%	6%	6%	7%	7%	5%
インド	17%	15%	9%	15%	18%	17%	1%	2%	1%	2%	3%
中国	15%	4%	5%	29%	14%	5%	6%	4%	5%	9%	3%
台湾	27%	3%	12%	22%	13%	2%	3%	3%	3%	5%	7%
韓国	32%	9%	2%	16%	5%	3%	2%	20%	1%	6%	3%
アジア (日、印、中、台、韓以外)	25%	16%	12%	10%	13%	9%	2%	1%	3%	4%	4%
オセアニア	28%	18%	8%	6%	8%	10%	0%	3%	3%	8%	4%
オーストラリア	31%	19%	9%	4%	8%	11%	0%	2%	3%	6%	4%
オセアニア (オーストラリア以外)	18%	18%	7%	11%	10%	6%	2%	4%	1%	15%	2%
北米	33%	11%	8%	6%	11%	10%	1%	5%	2%	7%	4%
米国	33%	11%	8%	6%	11%	11%	1%	5%	3%	6%	4%
カナダ	32%	13%	9%	7%	9%	8%	1%	4%	2%	11%	3%
中米	21%	11%	12%	8%	18%	5%	3%	6%	3%	7%	3%
南米	17%	18%	23%	8%	12%	3%	2%	5%	1%	7%	3%
西欧	23%	16%	13%	8%	7%	8%	1%	10%	2%	8%	3%
英国	26%	14%	12%	6%	5%	8%	1%	11%	2%	11%	4%
西欧 (英国以外)	22%	17%	13%	9%	8%	8%	1%	9%	2%	8%	3%
アフリカ	23%	16%	18%	6%	13%	7%	5%	3%	1%	3%	5%
中東	16%	10%	13%	10%	30%	5%	2%	2%	3%	6%	2%
東欧・旧ソ連	16%	14%	13%	11%	13%	4%	2%	5%	1%	11%	7%
途上地域	18%	11%	11%	16%	15%	6%	4%	4%	3%	7%	4%
先進地域	30%	11%	8%	9%	8%	8%	3%	7%	4%	7%	5%

■は地域・国で最大選択率、■は地域・国で第2位の選択率

- ・全体では、気候変動(25%)が支持率第1位を占め、環境汚染(12%)、生物多様性(11%)、水資源(11%)の順に続いた。
- ・大部分の地域において気候変動が支持率第1位となる中、中国では環境汚染、南米では土地利用、インドや中東では水資源、オセアニア(オーストラリア以外)では生物多様性が支持率第1位を占めた。
- ・多くの地域において、生物多様性が支持率第2位を占めた。

#### 4) 念頭に置いた項目の危機時刻の地域分布

	全体	1. 気候変動	2. 生物多様性	3. 土地利用	4. 環境汚染	5. 水資源	6. 人口	7. 食糧	8. ライフスタイル	9. 温暖化対策	10. 環境と経済	11. 環境と社会
全体	9:27	9:26	9:36	9:24	9:30	9:22	9:36	9:13	9:29	9:13	9:29	9:04
アジア (全)	9:15	9:13	9:16	9:14	9:32	9:14	9:16	9:07	9:16	9:03	9:15	8:54
日本	9:09	9:16	9:23	8:59	9:05	8:46	9:11	8:58	9:28	9:03	9:00	8:45
インド	9:22	8:35	8:53	9:29	9:53	9:14	9:49	-	-	-	-	9:33
中国	9:29	9:14	8:46	9:27	9:53	9:32	9:12	9:13	9:00	9:00	9:32	9:33
台湾	8:29	8:39	9:56	8:39	8:50	8:25	8:32	-	8:41	-	8:07	8:01
韓国	9:19	9:26	9:47	-	9:05	7:51	-	-	9:23	-	9:46	-
アジア (日、印、中、台、韓以外)	9:30	9:37	9:26	9:36	9:16	9:35	9:28	11:09	-	-	9:08	9:43
オセアニア	10:06	10:13	10:19	9:30	10:47	9:55	10:22	-	10:21	-	9:58	8:31
オーストラリア	10:01	10:17	10:26	9:13	10:35	9:43	10:18	-	10:04	-	10:14	8:20
オセアニア (オーストラリア以外)	10:22	10:11	10:09	10:41	10:56	10:38	-	-	-	-	10:27	-
北米	10:01	10:09	9:59	9:43	10:03	9:42	10:13	8:48	9:50	9:59	9:56	9:21
米国	10:02	10:07	10:03	9:46	10:02	9:45	10:11	8:53	9:49	9:55	9:49	9:24
カナダ	9:54	10:11	9:42	9:48	10:04	9:12	10:34	-	10:17	-	10:26	-
中米	9:47	10:03	10:14	9:23	8:59	9:45	9:47	-	10:10	-	9:31	9:19
南米	9:54	9:38	9:59	10:02	9:05	10:16	10:25	10:38	10:01	-	10:06	10:38
西欧	9:42	9:44	9:42	9:28	9:10	9:38	10:07	-	9:51	10:11	9:32	9:33
英国	9:49	9:37	10:06	9:35	8:46	8:53	10:26	-	9:58	10:13	9:51	-
西欧 (英国以外)	9:39	9:49	9:36	9:24	9:14	9:43	10:01	-	9:49	10:10	9:20	9:34
アフリカ	9:00	8:29	9:32	9:00	8:38	8:33	8:38	9:45	9:55	-	10:32	9:37
中東	9:10	8:47	9:07	9:43	8:17	9:42	10:10	-	-	8:51	-	10:18
東欧・旧ソ連	8:51	9:01	8:56	9:04	8:46	8:15	-	-	7:42	-	8:59	8:43
途上地域	9:26	9:13	9:26	9:29	9:37	9:26	9:23	9:36	9:12	9:11	9:36	9:24
先進地域	9:27	9:34	9:44	9:15	9:14	9:13	9:45	8:50	9:36	9:14	9:22	8:52

■は11時台、■は10時台、□は9時台、■は8時台、■は7時台

・全体では、生物多様性、人口(9:36)が最も危機意識の高い項目となり、次いで環境汚染(9:30)、ライフスタイル、環境と経済(9:29)が続いた。環境と社会(9:04)を除くと、9時13分～9時36分の比較的狭い範囲に全ての項目が分布している。

#### 強い危機感を示した地域・国

	10時を超える危機時刻を示した地域・国
1.気候変動	オセアニア、北米、中米
2.生物多様性	オセアニア、米国、中米、英国
3.土地利用	オセアニア(オーストラリア以外)、南米
4.環境汚染	オセアニア、北米
5.水資源	オセアニア(オーストラリア以外)、南米
6.人口	オセアニア、北米、南米、西欧、中東
7.食糧	アジア(日、印、中、台、韓以外)、南米
8.ライフスタイル	オセアニア、カナダ、中米、南米
9.温暖化対策	西欧
10.環境と経済	オーストラリア、オセアニア(オーストラリア以外)カナダ、南米、アフリカ
11.環境と社会	南米、中東

・気候変動は念頭に置いた項目の選択率第1位であるが、危機時刻は第6番目の9時26分であった。

## 問2 地球環境問題に関するご意見

2-1. 問1で1位に選択した項目と最も密接に関係していると考えられる項目はどれですか。表1の項目1～12から1つお選び下さい。「その他」の場合には、回答欄に内容をご記入下さい。

念頭においた項目のうちの1位項目（以下『1位項目』と略記）と密接に関係している項目

	合計 (回答数)	念頭においた項目のうちの1位項目と密接に関係している項目 (%)												
		1. 気候変動	2. 生物多様性	3. 土地利用	4. 環境汚染	5. 水資源	6. 人口	7. 食糧	8. ライフスタイル	9. 温暖化対策	10. 環境と経済	11. 環境と社会	12. その他	
全体	1397	9%	6%	11%	6%	3%	9%	3%	12%	10%	16%	9%	4%	
Q1-1. 念頭においた項目のうちの1位	1. 気候変動	520		8%	7%	8%	4%	8%	2%	13%	26%	16%	6%	3%
	2. 生物多様性	149	11%		39%	2%	1%	9%	1%	6%	0%	18%	7%	4%
	3. 土地利用	128	8%	20%		4%	2%	13%	3%	11%	1%	22%	13%	5%
	4. 環境汚染	109	11%	5%	5%		10%	14%	4%	11%	0%	26%	10%	6%
	5. 水資源	112	26%	5%	12%	17%		14%	4%	3%	1%	12%	4%	2%
	6. 人口	117	13%	3%	24%	5%	4%		10%	9%	1%	9%	17%	4%
	7. 食糧	25	24%	0%	20%	4%	0%	24%		8%	0%	12%	8%	0%
	8. ライフスタイル	65	15%	2%	5%	8%	0%	17%	6%		3%	15%	17%	12%
	9. 温暖化対策	37	51%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	19%		22%	8%	0%
	10. 環境と経済	66	9%	5%	11%	8%	2%	9%	2%	26%	0%		24%	5%
	11. 環境と社会	45	9%	4%	4%	2%	0%	9%	0%	33%	2%	22%		13%
	12. その他	15	13%	7%	0%	7%	0%	13%	0%	27%	0%	20%	13%	

■は最も支持率が高い項目、■は密接関係項目が危機1位項目と同じ場合で、ここでは除いた

- ・上の表は『1位項目』を選んだ人が、その項目と密接に関係している項目（密接関係項目）として何を選んだかを示したものである。赤くハッチした箇所は最も支持率が高い項目である。灰色でハッチした項目は密接関係項目と『1位項目』が同じとした回答で、ここでは除かせていただいた。

2-2. 2-1で密接に関係している項目を選択した理由に近い番号を表2から1つ選んでご記入下さい。

2-3. 問1、2-1で選択した2つの項目に対し、これらを解決するためにはどの分野の対策が最も有効と考えられますか。表3から1つお選び下さい。また選択した理由または具体的な対策をご記入下さい。その他の分野をご提案される場合には、回答欄に分野と対策をご記入下さい。

密接関係項目を選んだ理由。解決するために最も有効と考えられる分野

組合せNo.	Q2-1. で支持率の高い組合せ		Q2-2. 密接関係項目を選んだ理由				Q2-3. 解決するために最も有効と考えられる分野				
	『1位項目』	密接関係項目	1. 1位の項目の原因になっている	2. 1位の項目の結果になっている	3. 強く相互作用している	4. その他	1. 政治分野	2. 経済分野	3. 社会・教育分野	4. 科学技術分野	5. その他
①	1. 気候変動	9. 温暖化対策	50%	13%	36%	0%	36%	28%	20%	14%	2%
②	2. 生物多様性	3. 土地利用	45%	3%	52%	0%	28%	36%	31%	3%	2%
③	3. 土地利用	10. 環境と経済	54%	4%	43%	0%	7%	54%	36%	0%	4%
④	4. 環境汚染	10. 環境と経済	57%	4%	39%	0%	18%	54%	18%	7%	4%
⑤	5. 水資源	1. 気候変動	41%	10%	48%	0%	28%	10%	52%	10%	0%
⑥	6. 人口	3. 土地利用	7%	61%	32%	0%	18%	14%	54%	7%	7%
⑦	7. 食糧	1. 気候変動	100%	0%	0%	0%	33%	17%	17%	33%	0%
⑧	7. 食糧	6. 人口	83%	0%	0%	17%	33%	17%	50%	0%	0%
⑨	8. ライフスタイル	6. 人口	27%	0%	73%	0%	9%	27%	55%	0%	9%
⑩	8. ライフスタイル	11. 環境と社会	36%	0%	64%	0%	0%	18%	82%	0%	0%
⑪	9. 温暖化対策	1. 気候変動	21%	37%	37%	5%	37%	26%	16%	21%	0%
⑫	10. 環境と経済	8. ライフスタイル	29%	18%	53%	0%	12%	47%	35%	6%	0%
⑬	11. 環境と社会	8. ライフスタイル	7%	7%	87%	0%	13%	27%	53%	7%	0%

■は最も支持率が高い項目



- ・密接関係項目を選んだ理由で、赤くハッチした個所は支持率が高い項目である。「密接関係項目が『1位項目』の**原因**になっている」とされた組合せは、①「温暖化対策(密接関係)－気候変動(『1位項目』)」、③④「環境と経済－土地利用、環境汚染」、⑦⑧「気候変動、人口－食糧」である。「密接関係項目が『1位項目』の**結果**になっている」とされた組合せは、⑥「土地利用(密接関係)－人口(『1位項目』)」で、人口増加 → 食糧需要の増加 → 耕地の拡大が想定されていると考えられる。「密接関係項目が『1位項目』と強く**相互作用**している」とされた組合せでは、⑫⑬「ライフスタイル(密接関係)－環境と経済、環境と社会(『1位項目』)」、⑩「環境と社会－ライフスタイル」があげられた。以上の組合せは回答者の意図が理解し易いと考えられる。しかし、⑪「気候変動(密接関係)－温暖化対策(『1位項目』)」は複数の理由が高い支持率で選ばれ、①～⑤は2位の支持率も高い。これらは密接関係項目と『1位項目』の関係の見方が回答者によって分かれることを示している。これらの理解にはより深い考察が必要と考えられる。
- ・解決するために最も有効と考えられる分野では、政治分野の支持率が高いのは、①⑪、すなわち密接関係項目として温暖化対策、気候変動を含む組合せで、これは国際協力による地球温暖化の解決が期待されているものと考えられる。経済分野の支持率が高いのは、③④環境と経済を含む組合せである。これらは環境配慮型経済運営などの進捗による環境問題の解決が期待されていると考えられる。また、社会・教育分野の支持率が高いのは、⑧⑩⑬、すなわち人口、環境と社会またはライフスタイルを含む組合せで、これは環境教育の進展による人口増加の抑制、ライフスタイルの転換が期待されているためと考えられる。また、②⑥はともに密接関係項目は土地利用であるが、解決に有効な分野はそれぞれ、経済分野、社会・教育分野と異なっている。『1位項目』が、②は生物多様性、⑥は人口であり、それぞれ無秩序な開発による自然破壊、貧困を原因とした人口増加・耕地の拡大を想起させる。

前項の組合せ①～⑬に対して、選択した理由または具体的な対策のコメントを下表に示す。

問2-3におけるコメント(選択した理由または具体的な対策)

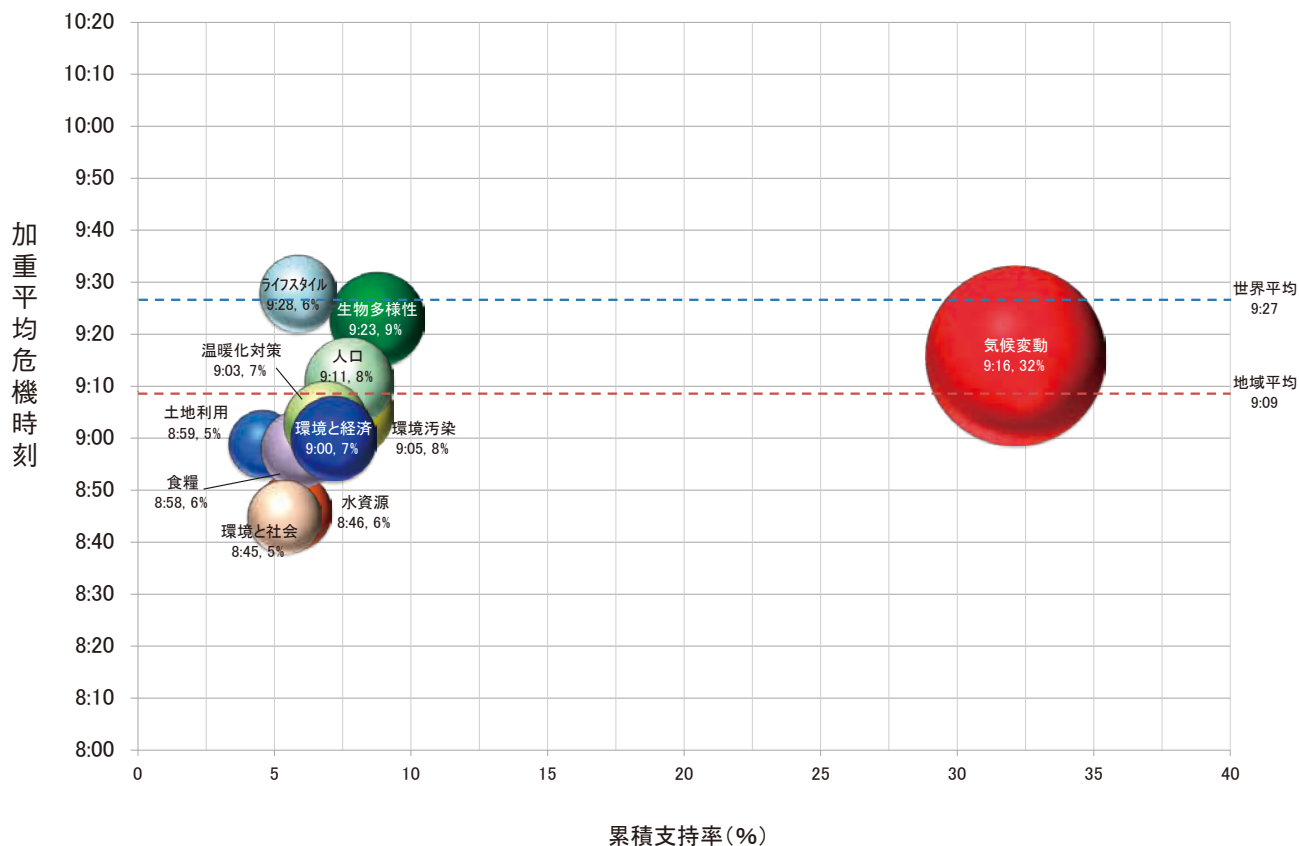
	1.政治分野	2.経済分野	3.社会・教育分野	4.科学技術分野	5.その他
選択した理由または具体的な対策の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協力による取組み</li> <li>・国際的な政治的リーダーシップの必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境コストを含んだ値段付け</li> <li>・カーボンプライシング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題の教育</li> <li>・環境保護意識の向上</li> <li>・ライフスタイルの変更</li> <li>・環境保護活動などの実践的取組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境についての理論の発達</li> <li>・省エネルギー技術の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保護に関する法整備</li> <li>・エネルギー転換、原子力利用</li> <li>・他の分野の組合せ</li> </ul>
総数 199	60	55	54	21	9

- ・政治分野に関するコメントでは、気候変動など地球規模の環境問題への国際協力による対処、政治的リーダーシップを伴った取り組みへの期待が多く見られた。
- ・経済分野では商品の環境コストを含んだ値段付け、カーボンプライシング、社会・教育分野では環境問題の教育という意見が最も多かった。教育により次代を担う若年層に環境への意識を高めてもらい、将来の政治、経済、社会を変えてもらう事への期待が記されていた。
- ・科学技術分野では、地球環境の理論と予測技術の進展への期待があった。
- ・その他では、環境保護に関する法律の整備というコメントが目立った。

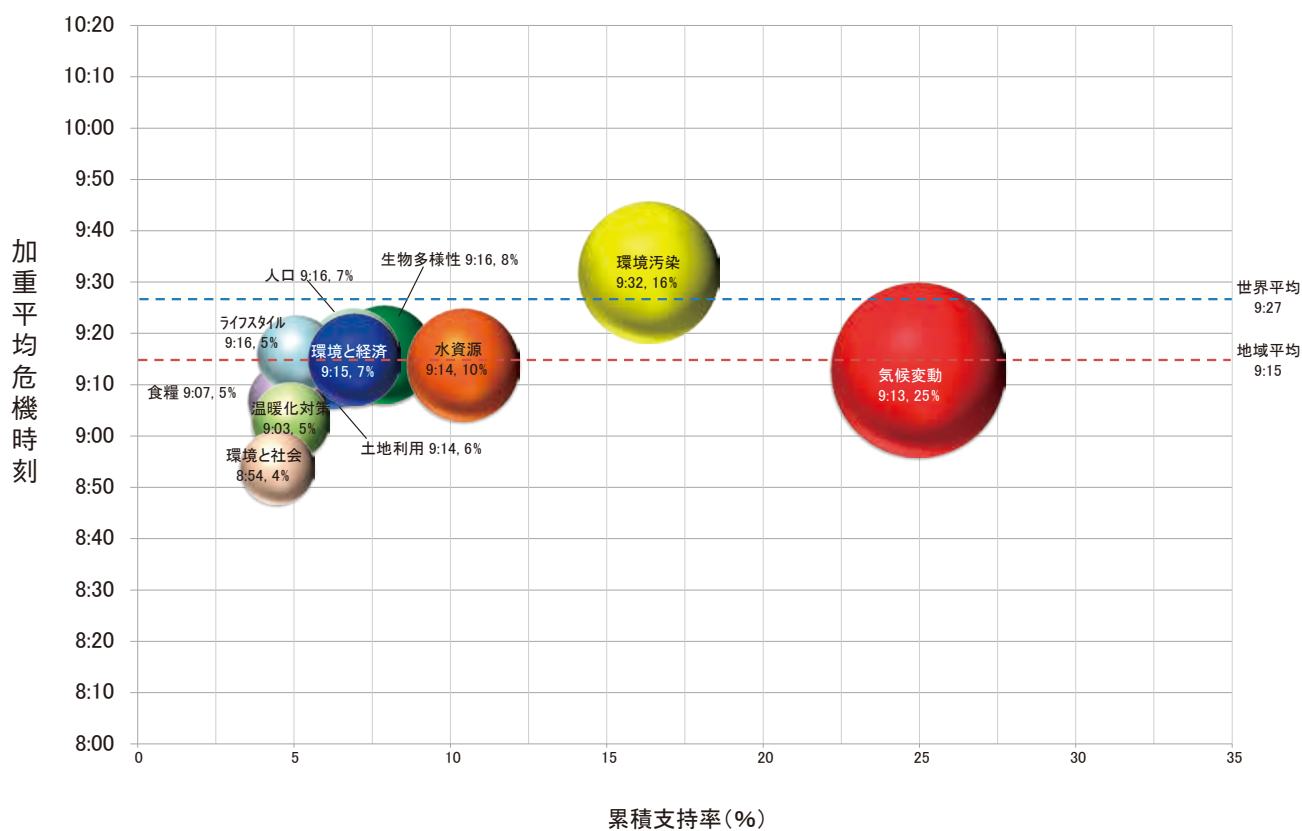


参考)各地域、国の念頭においた項目(第1位～3位選択)の分布(項目ごとの危機時刻と支持率)

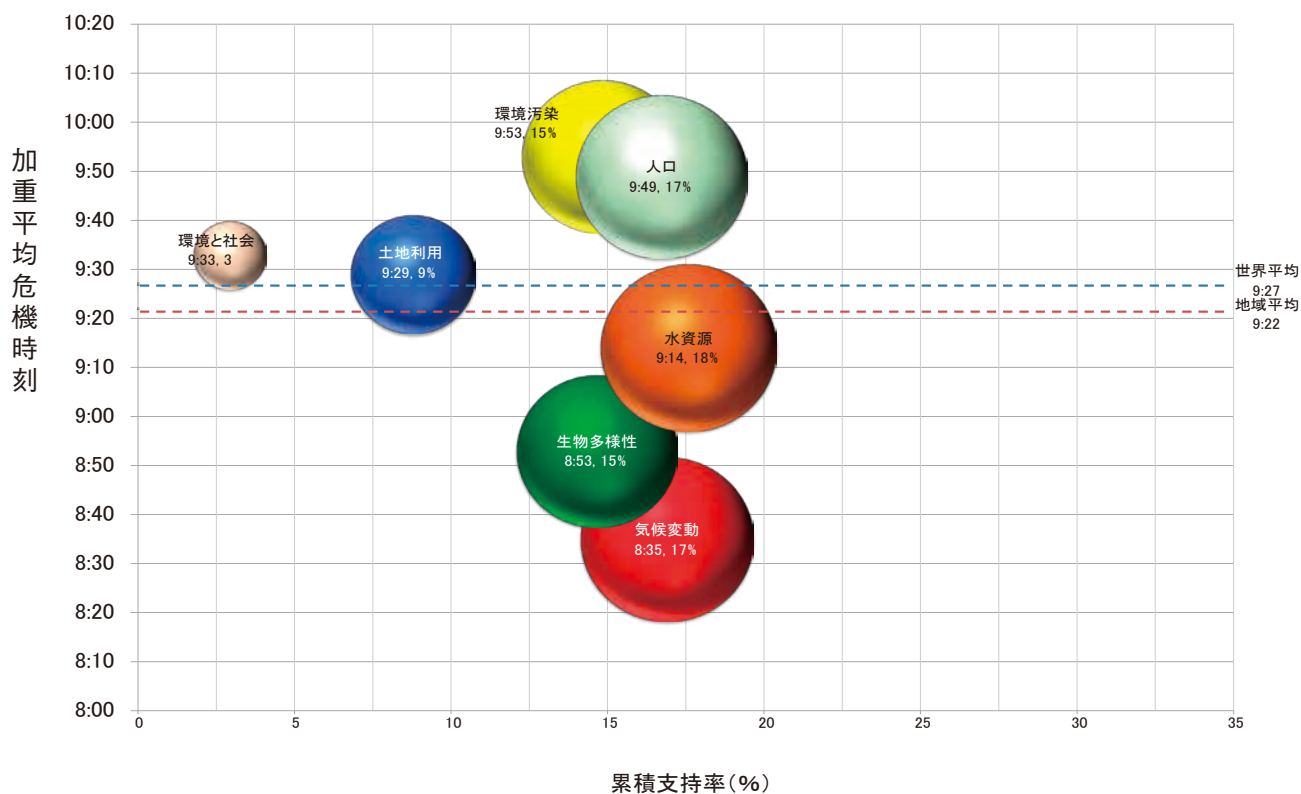
グラフ5 日本



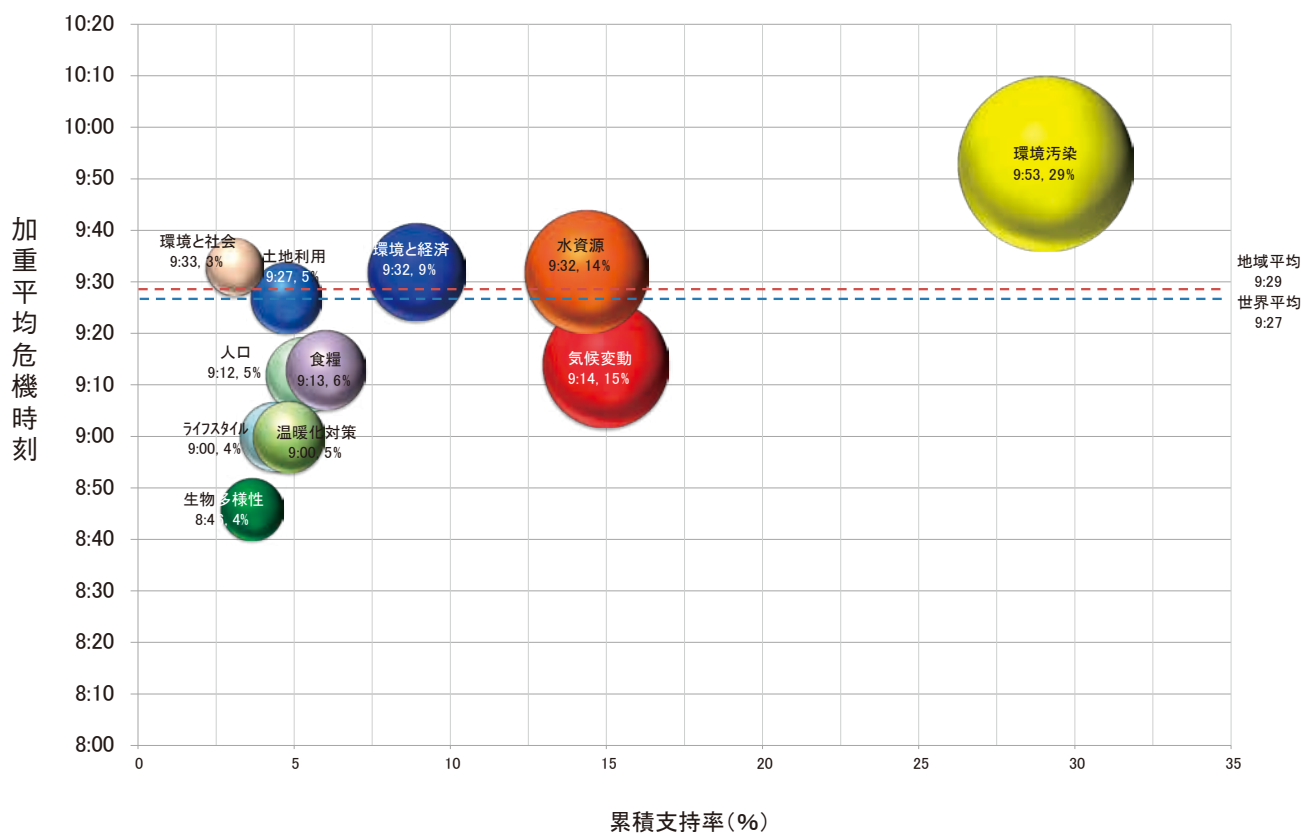
グラフ6-1 全アジア



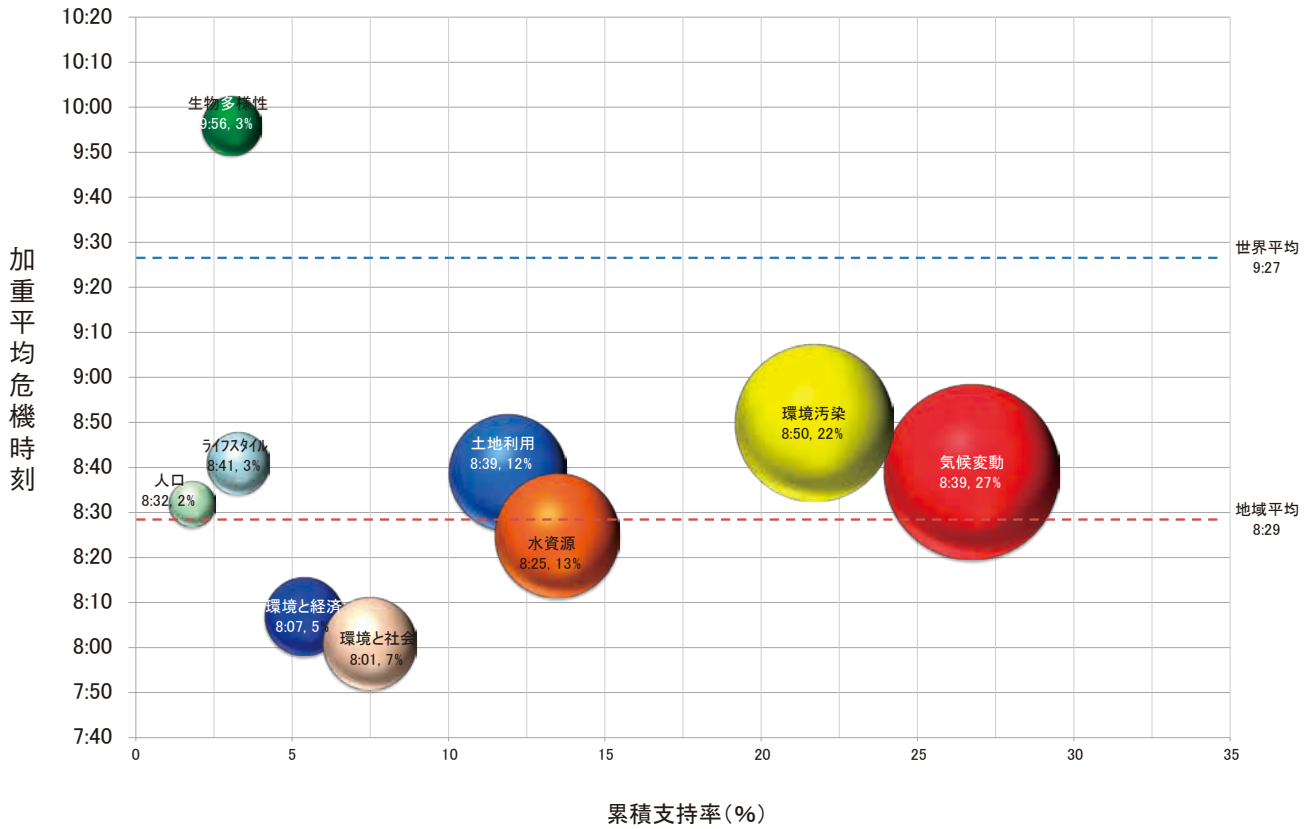
グラフ6-2 インド



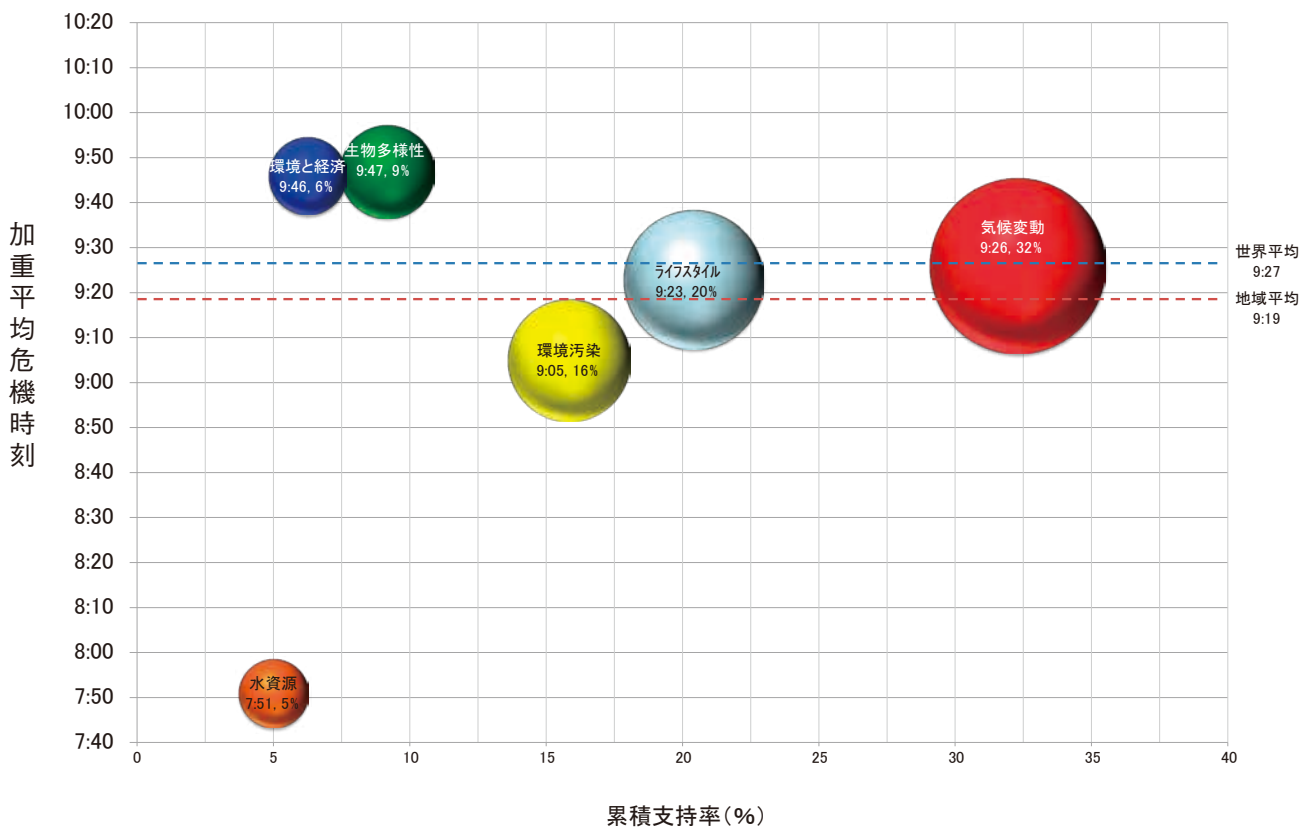
グラフ6-3 中国



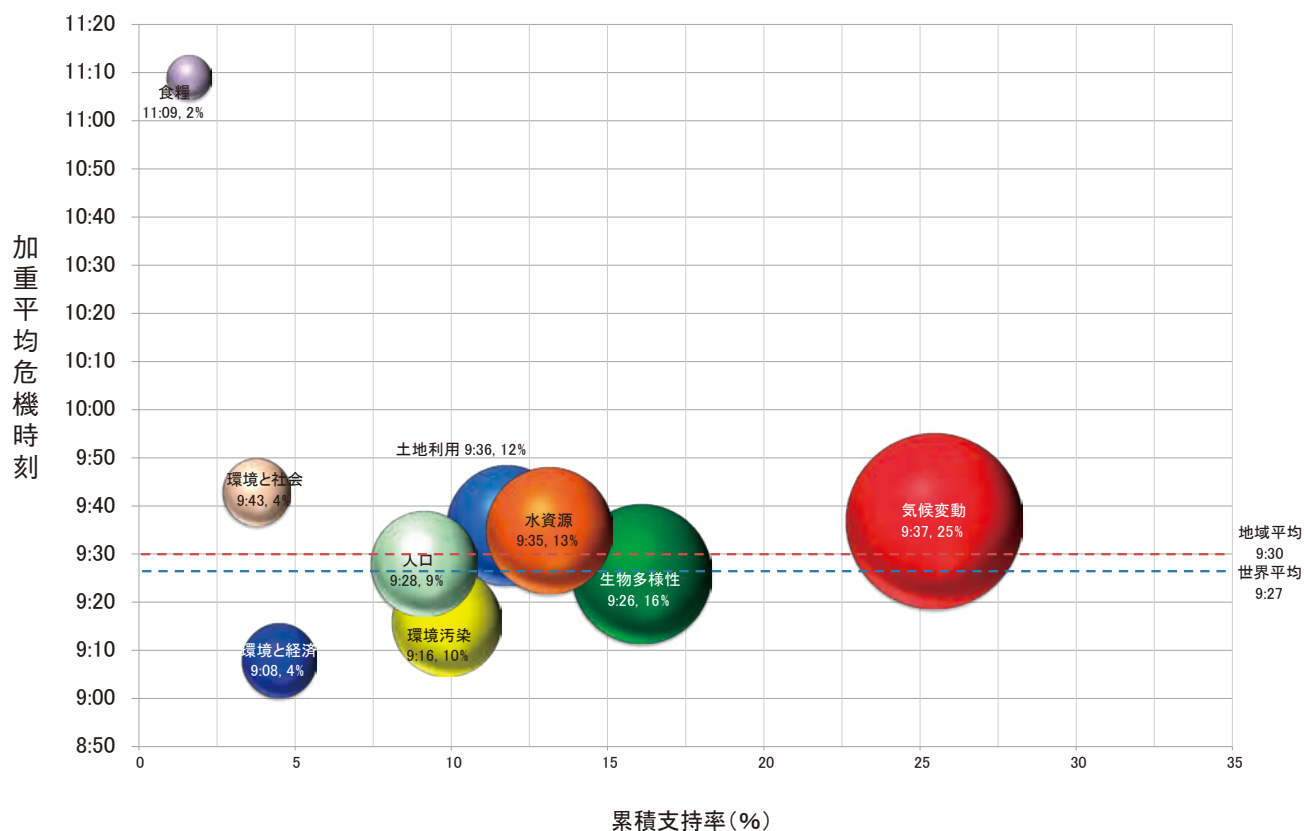
グラフ6-4 台湾



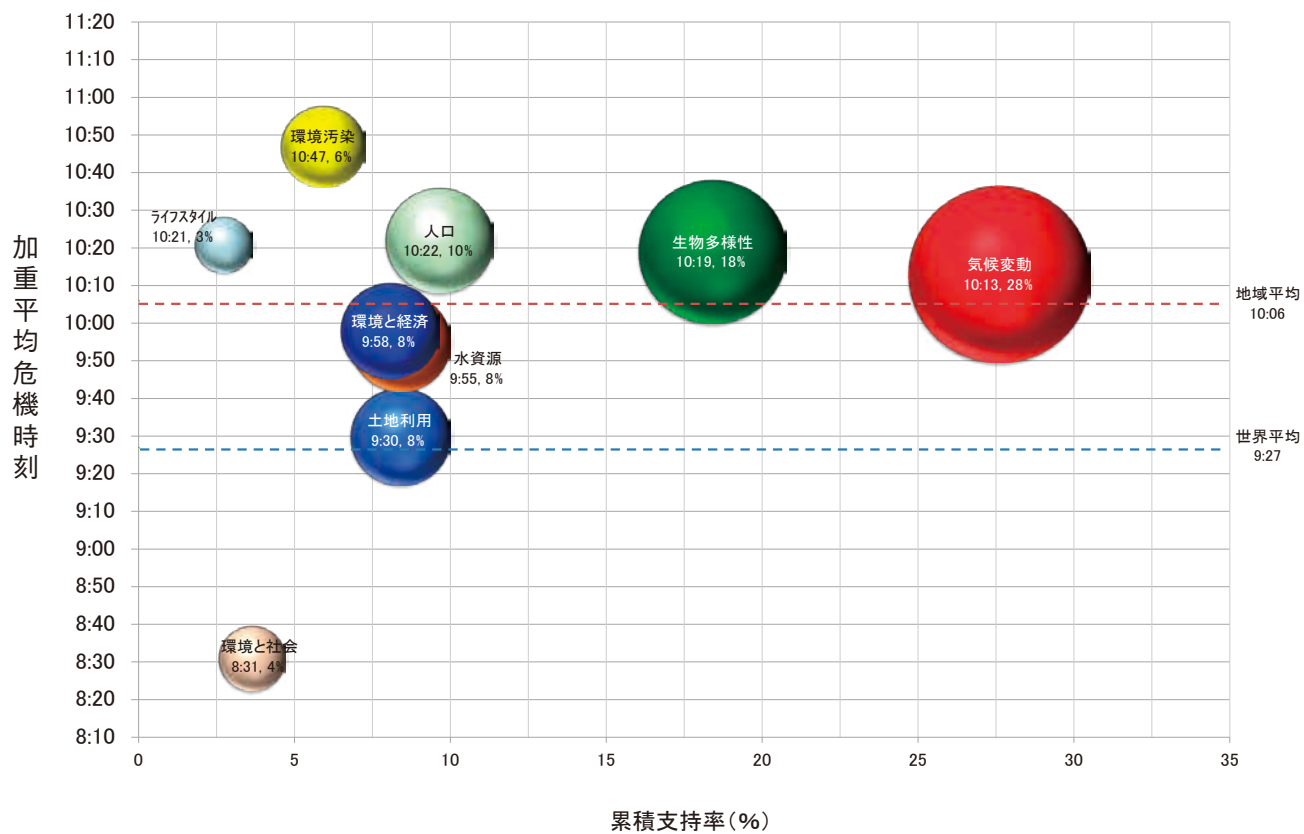
グラフ6-5 韓国



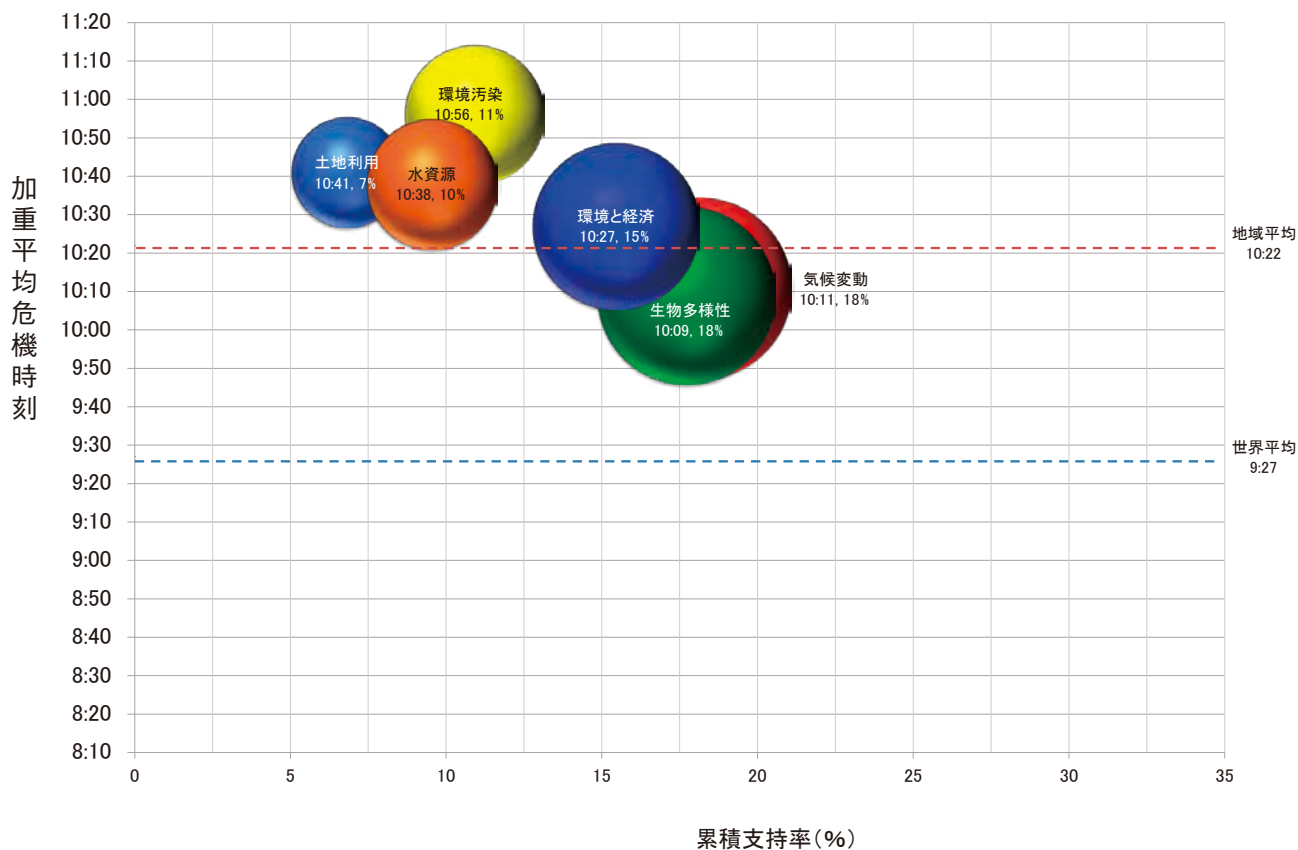
グラフ6-6 アジア(日、印、中、台、韓以外)



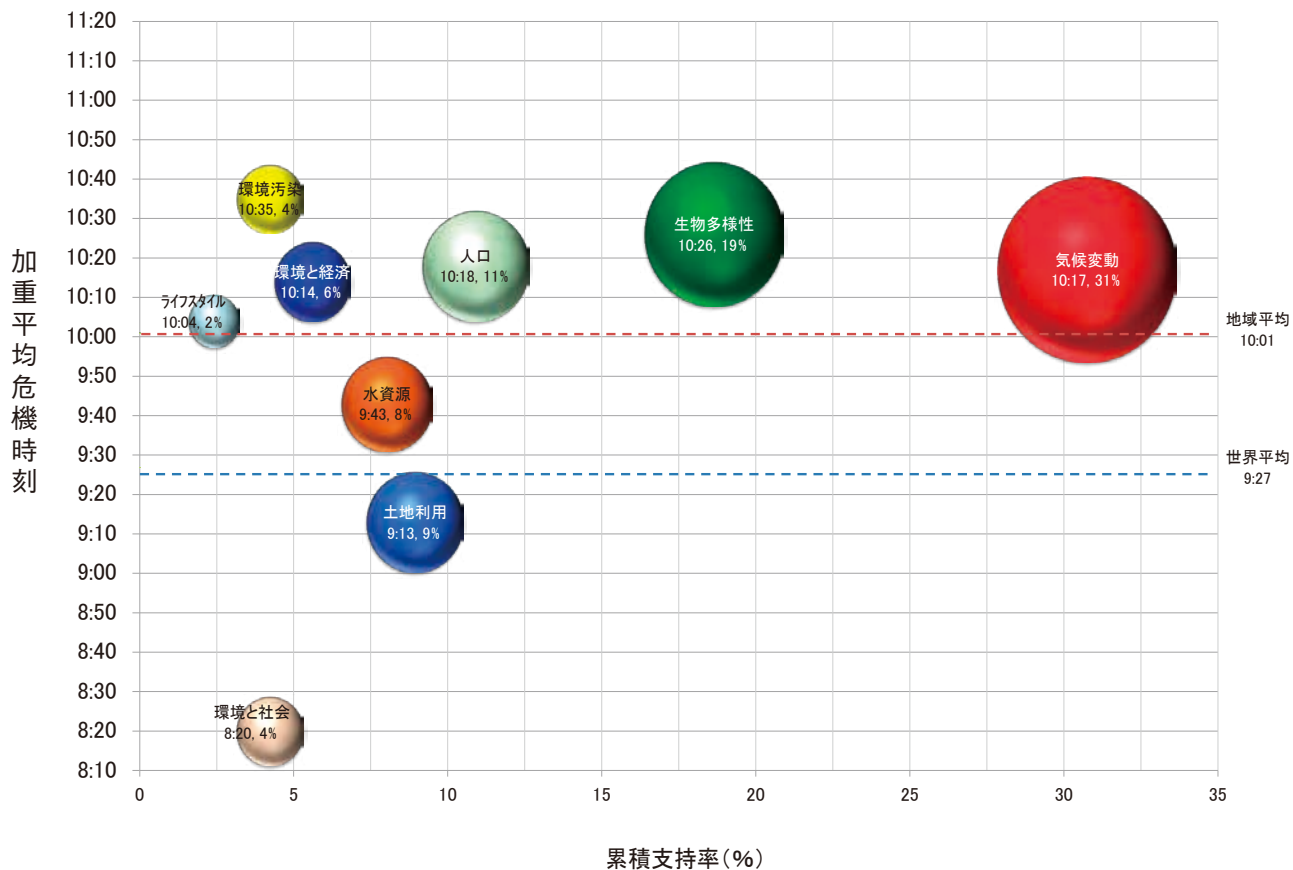
グラフ7-1 オセアニア



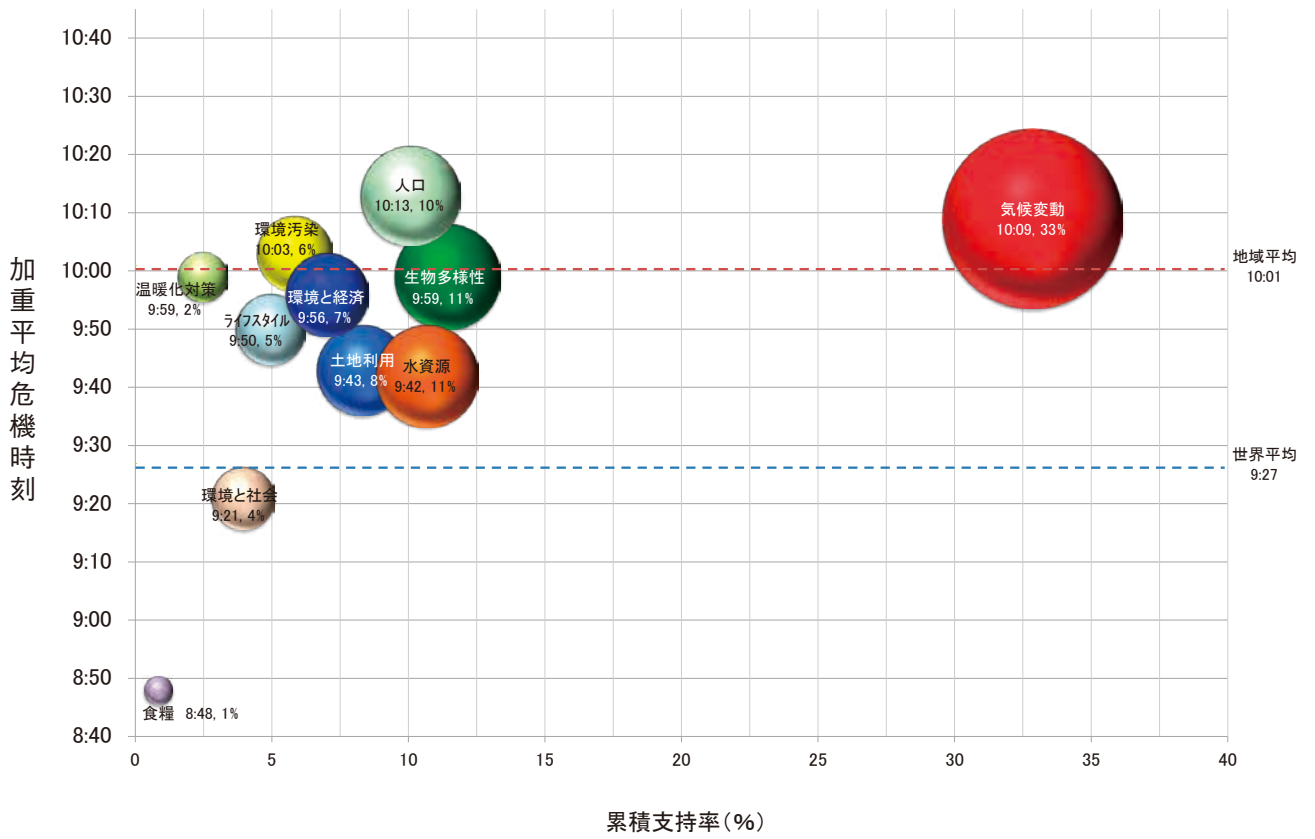
グラフ7-2 オセアニア (オーストラリア以外)



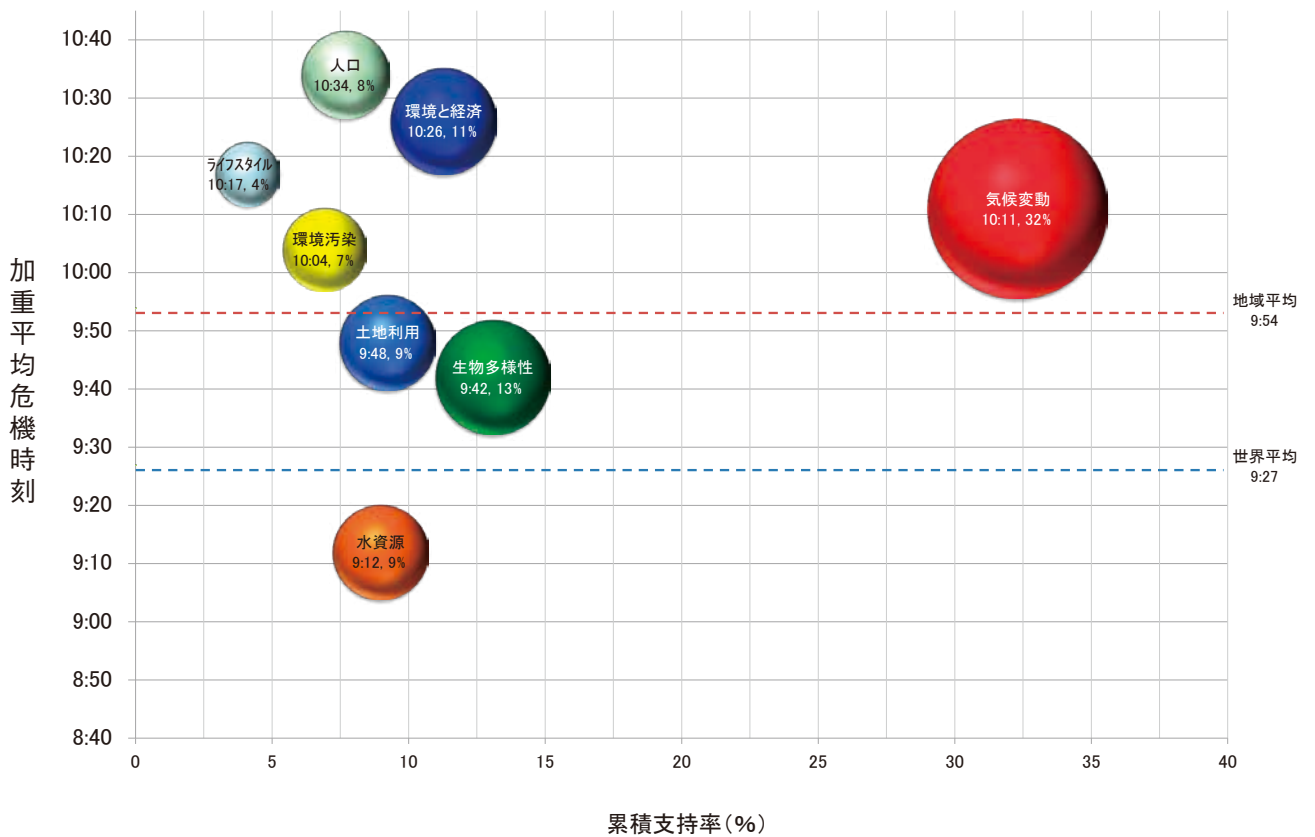
グラフ7-3 オーストラリア



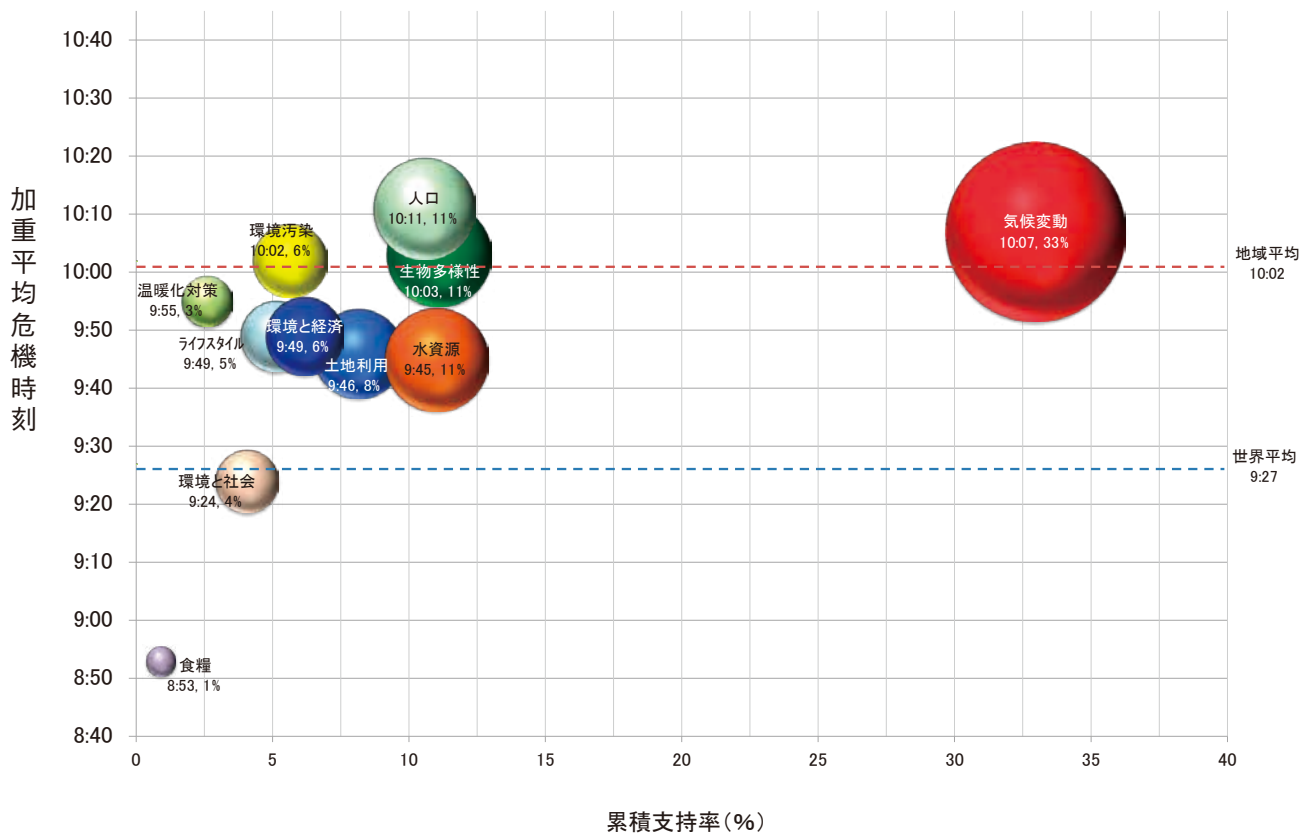
グラフ8-1 北米



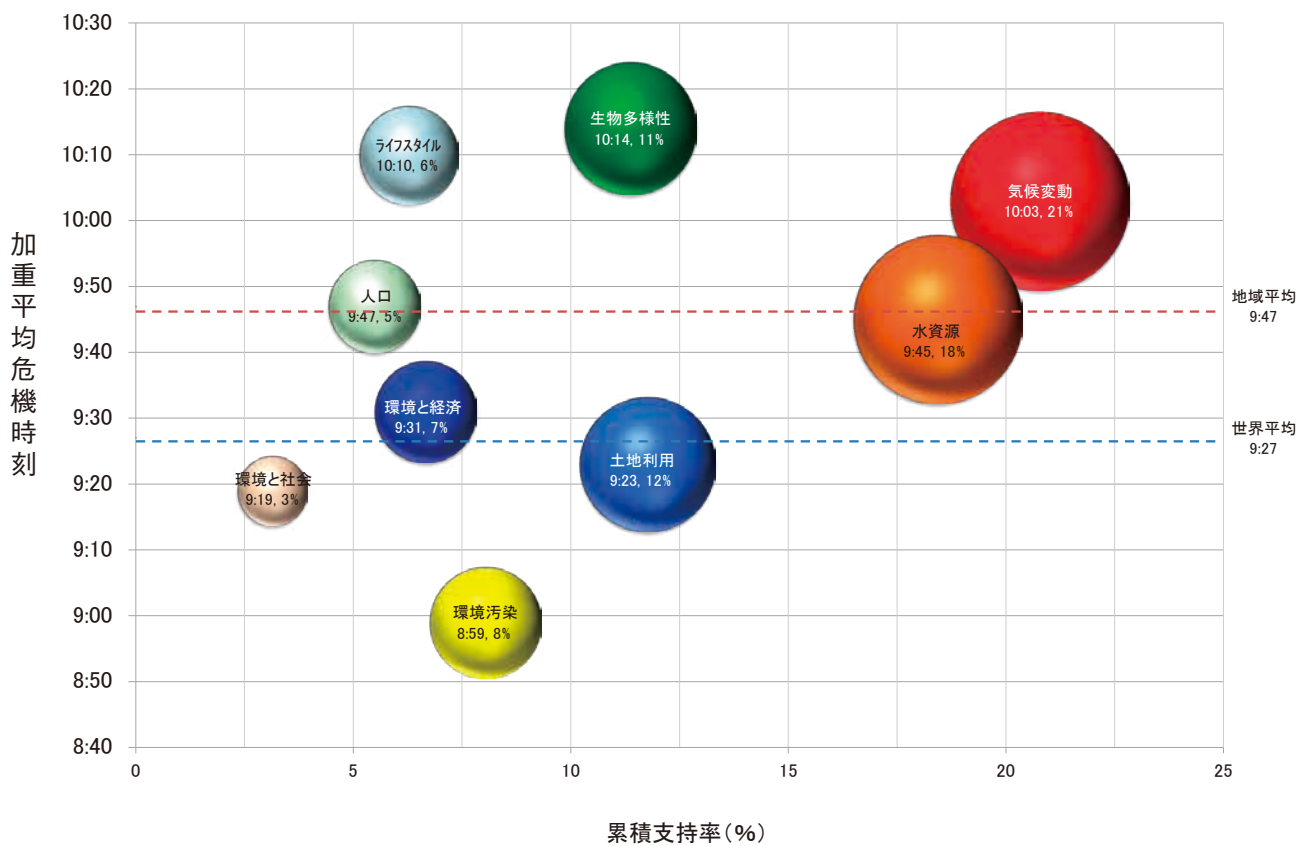
グラフ8-2 カナダ



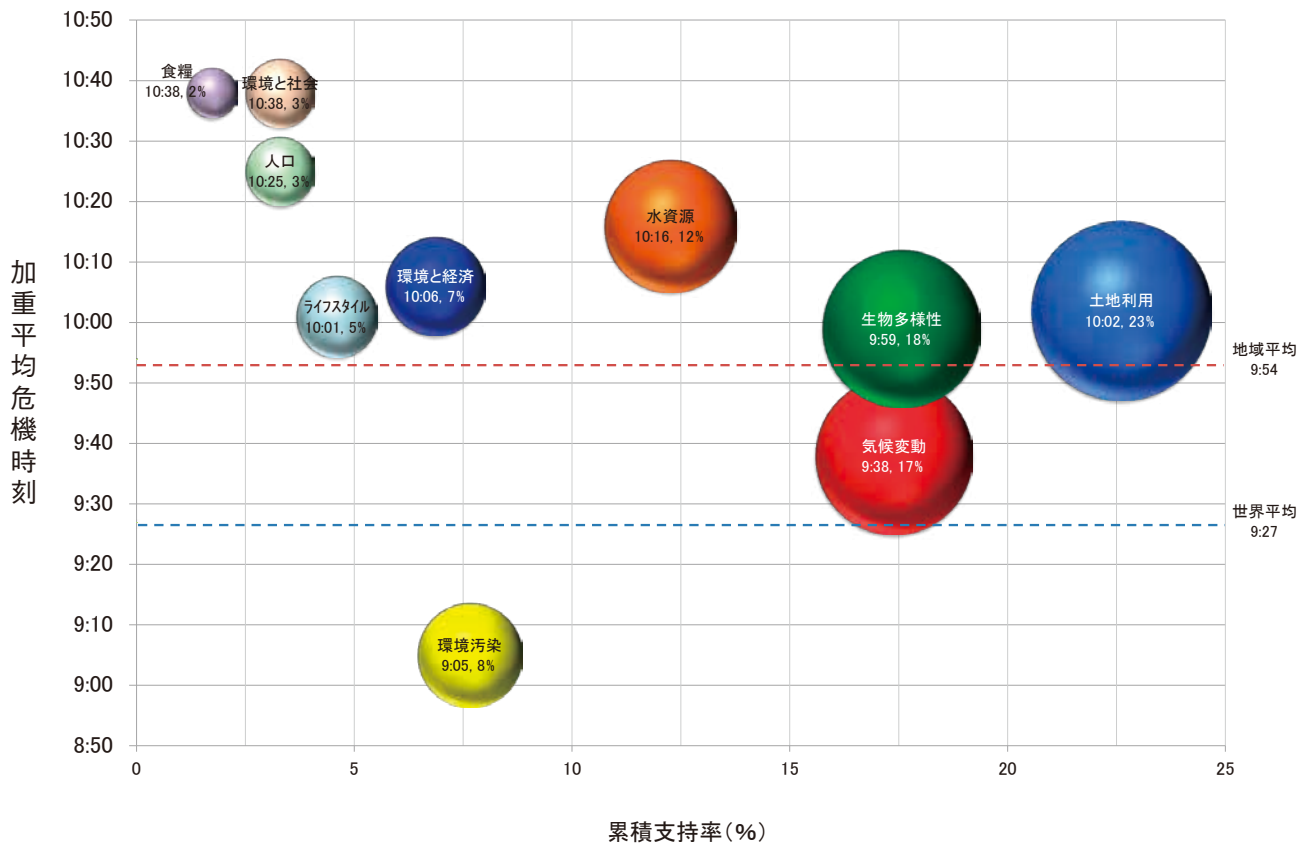
グラフ8-3 米国



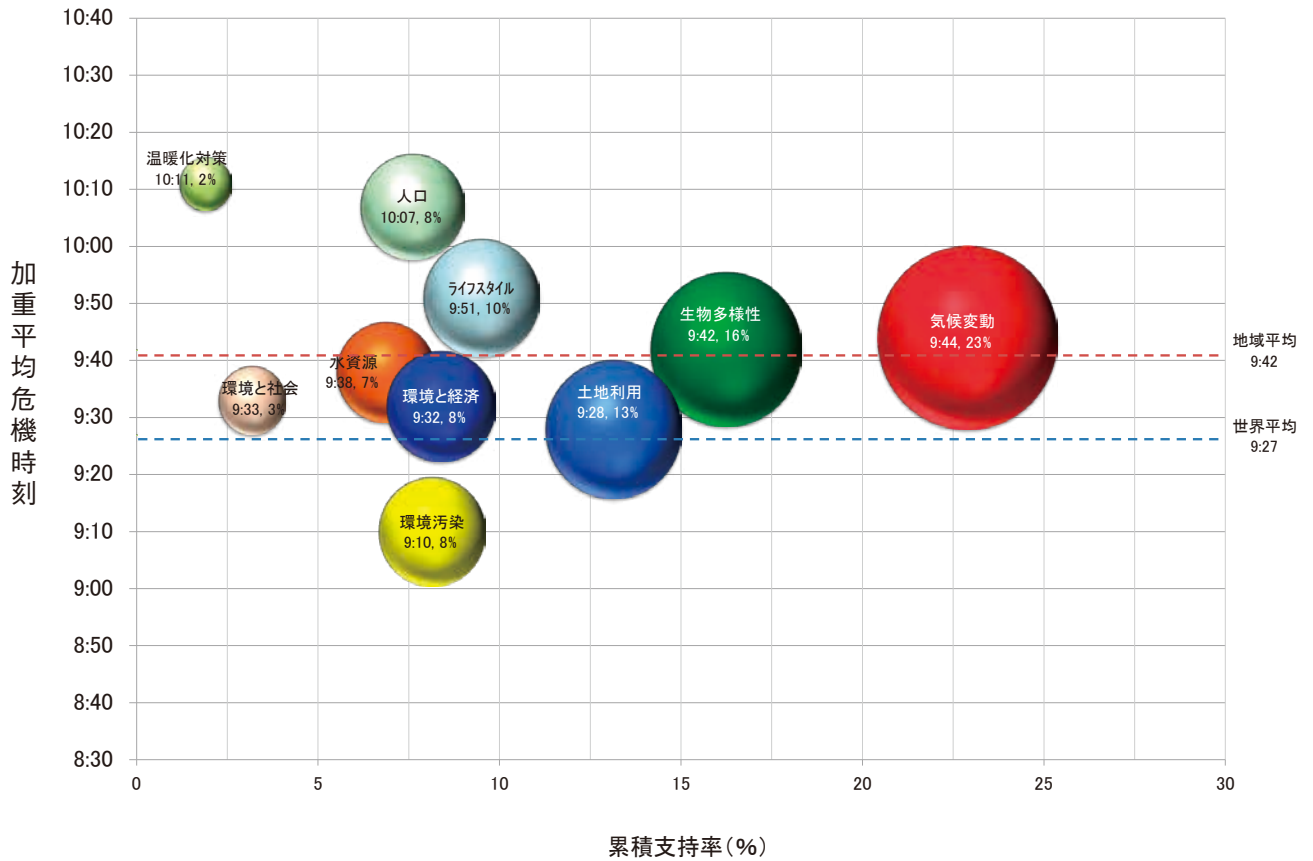
グラフ9 中米



グラフ10 南米

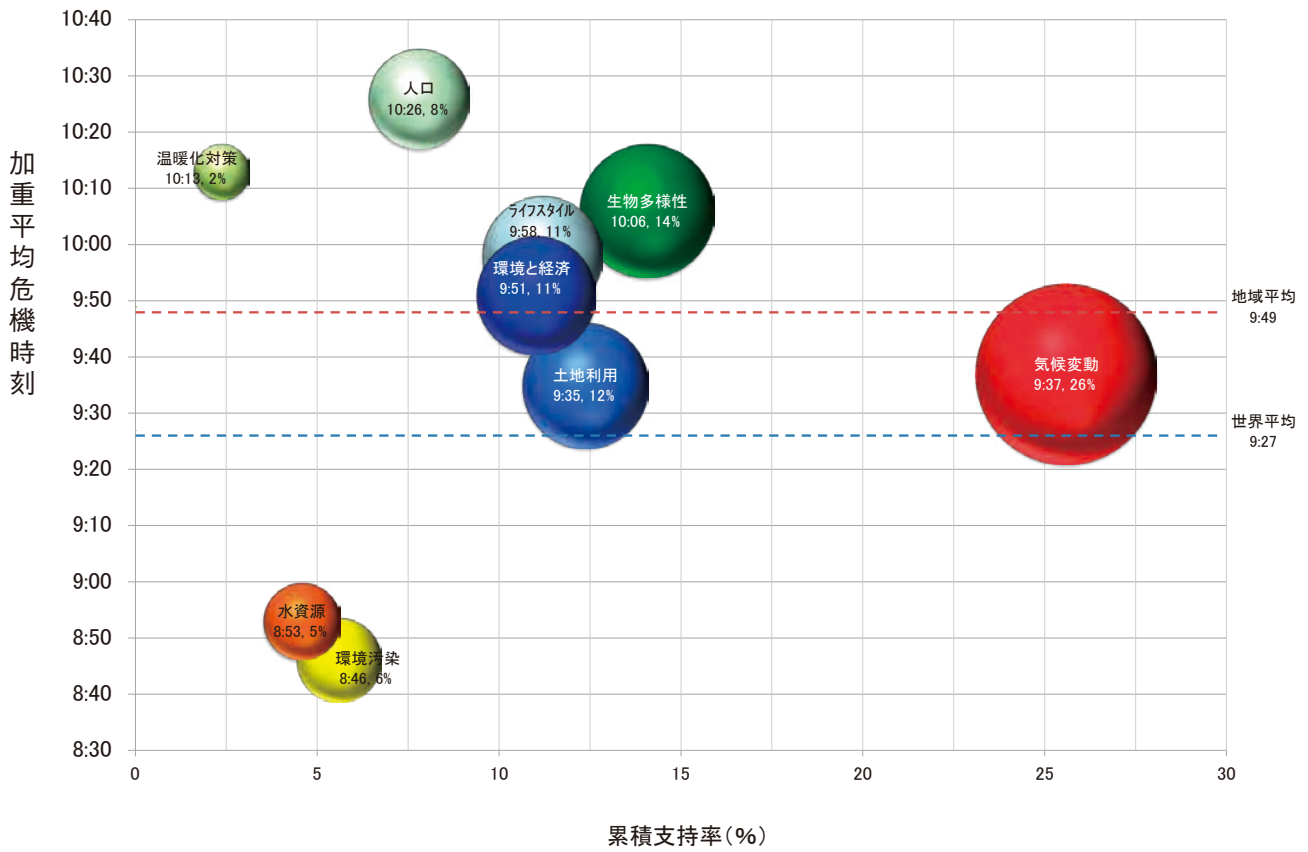


グラフ11-1 西欧

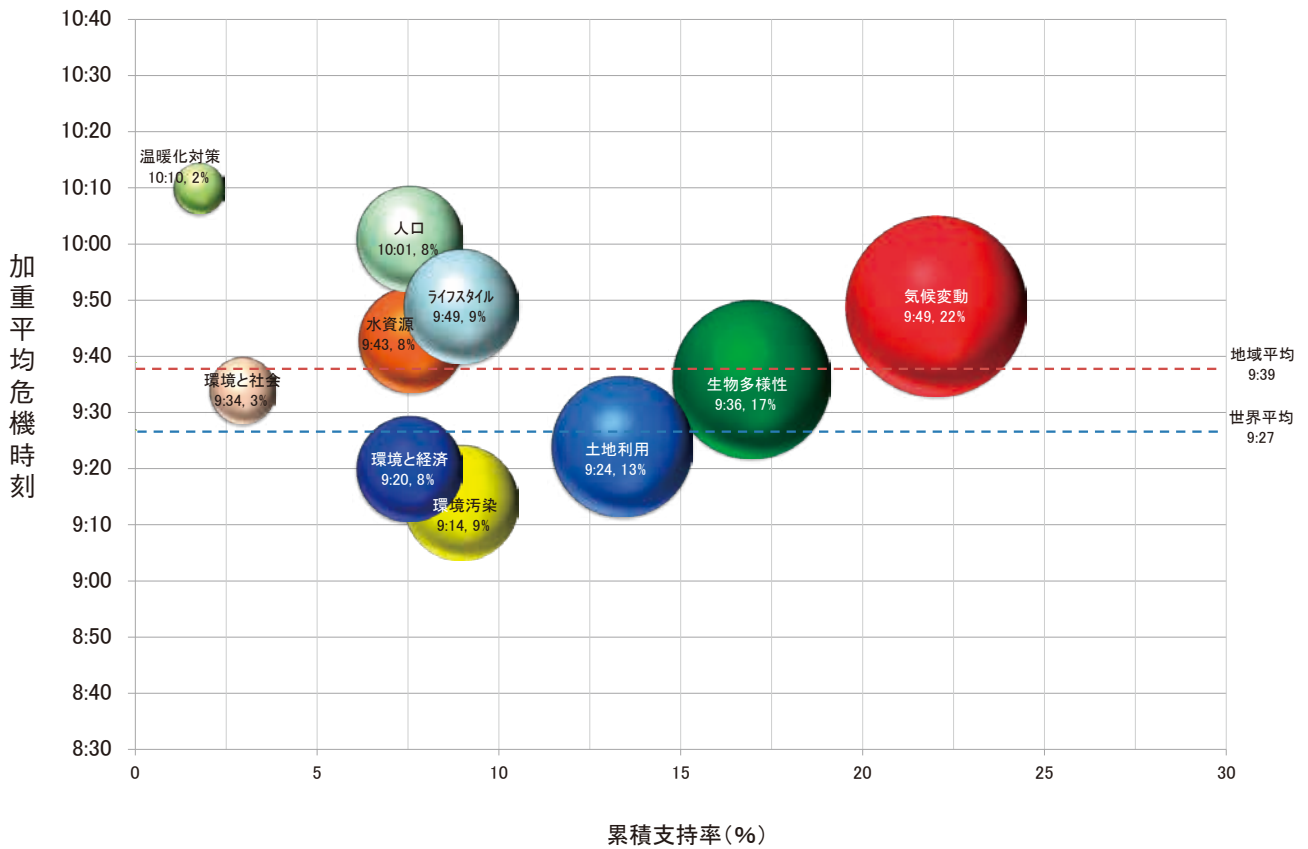




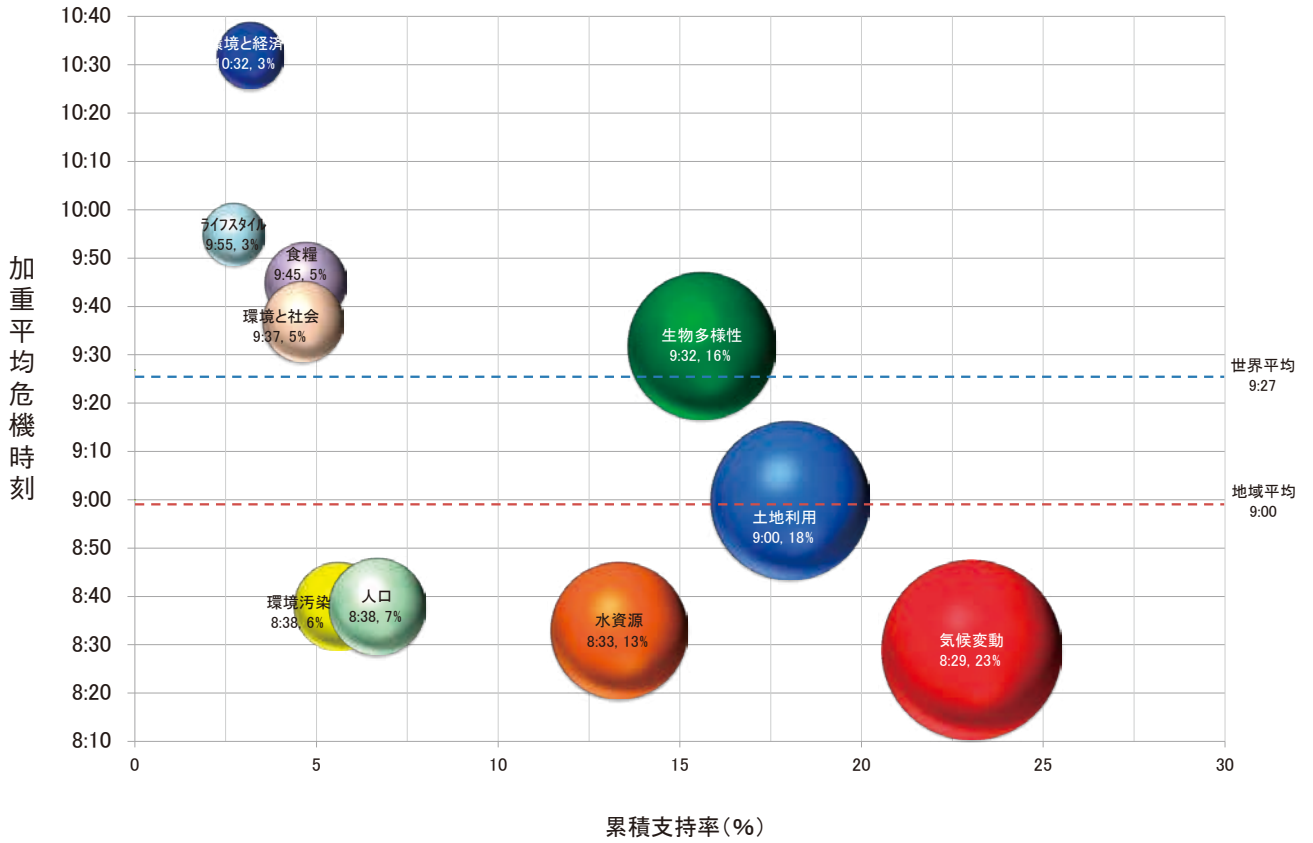
グラフ 11-2 英国



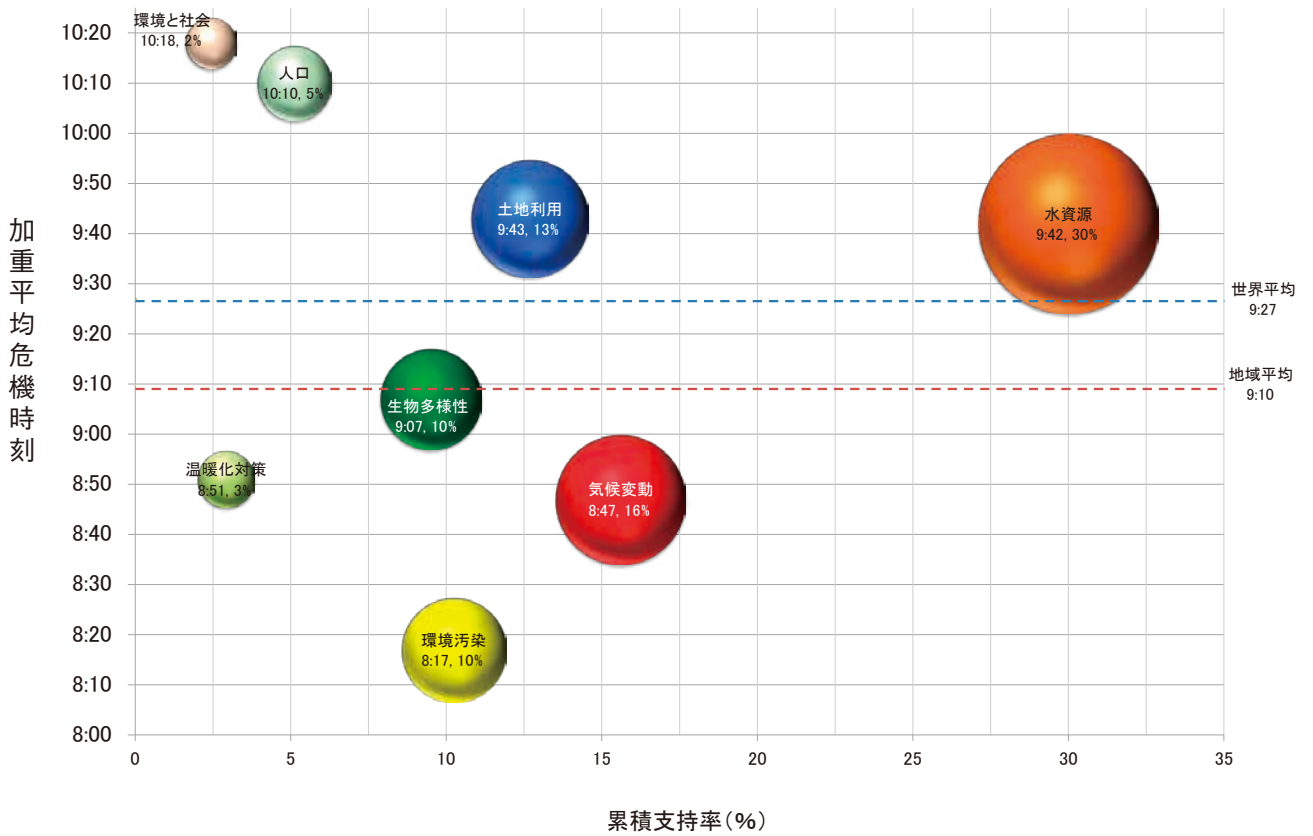
グラフ 11-3 英国以外



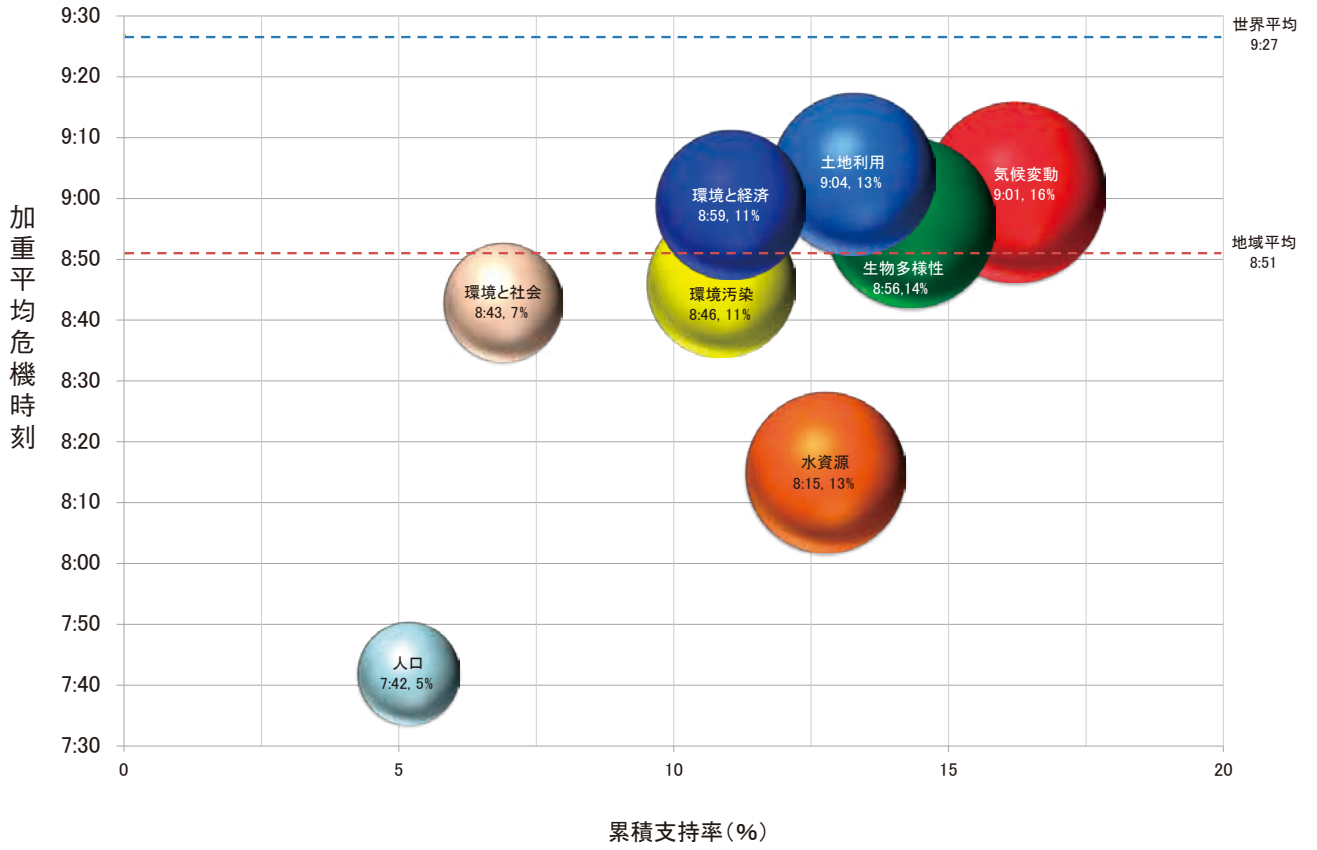
グラフ12 アフリカ



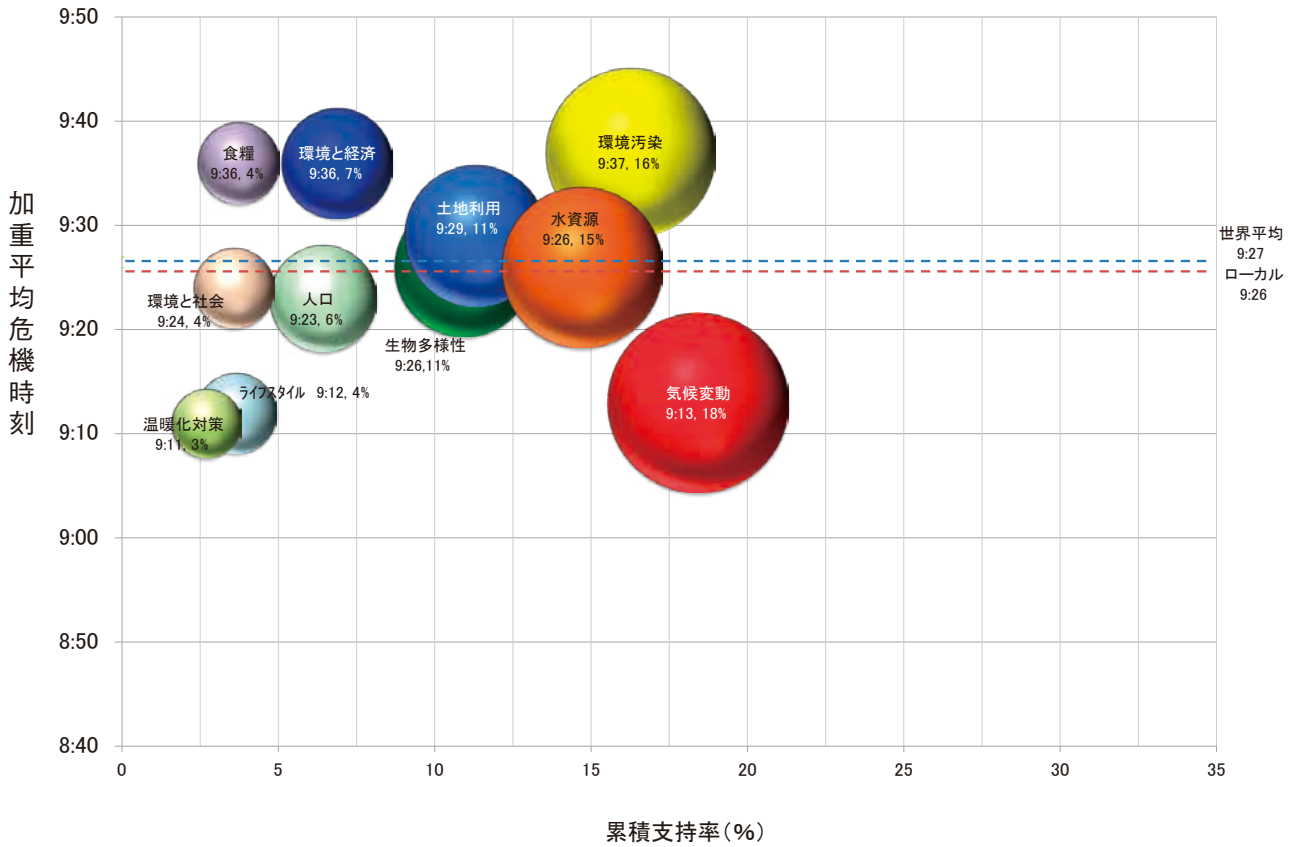
グラフ13 中東



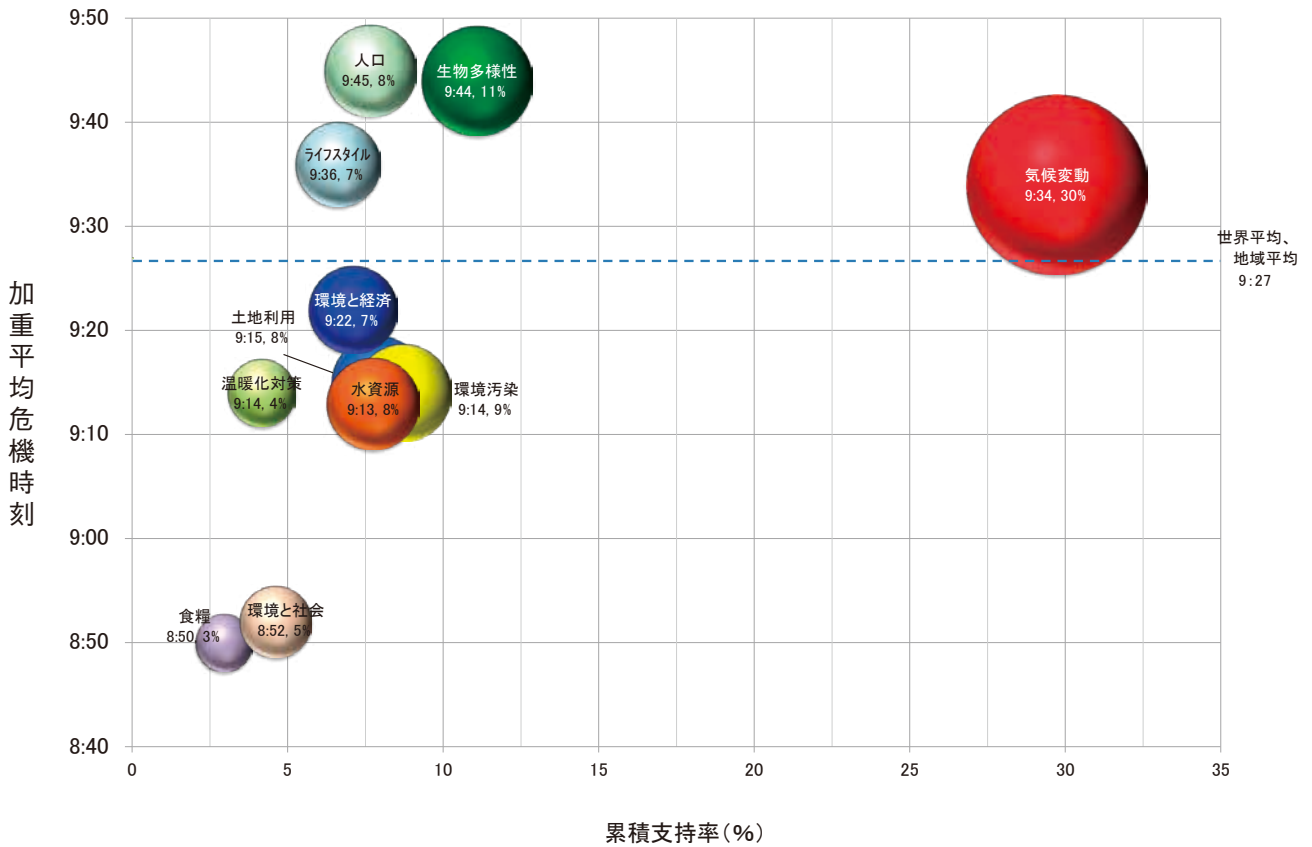
グラフ14 東欧・旧ソ連



グラフ15 途上地域



グラフ16 先進地域



# IV . データブック

## 国別回収結果

地域	国名	集計	
アフリカ	ALGERIA	4	
	ANGOLA	1	
	BENIN	1	
	BOTSWANA	2	
	BURKINA FASO	7	
	CAMEROON	6	
	CONGO	8	
	COTE D'IVOIRE	4	
	DJIBOUTI	1	
	EGYPT	4	
	GABON	2	
	GHANA	2	
	GUINEA-BISSAU	1	
	KENYA	8	
	LIBYA	1	
	MADAGASCAR	11	
	MALAWI	1	
	MALI	4	
	MAURITANIA	1	
	MAURITIUS	6	
	MOROCCO	3	
	MOZAMBIQUE	2	
	NAMIBIA	3	
	NIGER	1	
	NIGERIA	4	
	REPUBLIC OF GUINEA	1	
	RWANDA	1	
	SENEGAL	1	
	SIERRA LEONE	3	
	SOUTH AFRICA	16	
	TANZANIA	2	
	TOGO	2	
	TUNISIA	6	
	UGANDA	8	
	ZAMBIA	1	
	ZIMBABWE	3	
	<b>アフリカ 集計</b>		<b>132</b>
	アジア	AFGHANISTAN	3
		BAHRAIN	1
		BANGLADESH	8
		BHUTAN	2
		BRUNEI	1
		CAMBODIA	4
CHINA		338	
HONG KONG		1	
INDIA		58	
INDONESIA		13	
JAPAN		452	
KOREA		48	
LAOS		1	
MALAYSIA		10	
MONGOLIA		3	
NEPAL		8	
PAKISTAN		16	
PHILIPPINES		14	
SINGAPORE		5	
SRI LANKA	11		
TAIWAN	95		
THAILAND	13		
VIETNAM	11		
<b>アジア 集計</b>		<b>1116</b>	

地域	国名	集計
オセアニア	AUSTRALIA	66
	COOK ISLANDS	1
	FIJI	3
	FRENCH POLYNESIA	1
	NEW ZEALAND	11
	PALAU	1
	PAPUA NEW GUINEA	2
	SAMOA	1
	TUVALU	1
	VANUATU	1
	<b>オセアニア 集計</b>	
西欧	ANDORRA	1
	AUSTRIA	9
	BELGIUM	8
	DENMARK	2
	FINLAND	7
	FRANCE	20
	GERMANY	24
	GREECE	3
	ICELAND	1
	IRELAND	2
	ITALY	25
	LIECHTENSTEIN	1
	MALTA	2
	NORWAY	5
	PORTUGAL	7
	SPAIN	23
	SWEDEN	1
	SWITZERLAND	23
	THE NETHERLANDS	19
UK	59	
<b>西欧 集計</b>		<b>242</b>
東欧・旧ソ連	ALBANIA	2
	ARMENIA	1
	BELARUS	1
	BULGARIA	3
	CROATIA	8
	CZECH	2
	ESTONIA	2
	GEORGIA	2
	HUNGARY	3
	KAZAKHSTAN	2
	LITHUANIA	1
	MACEDONIA	1
	MONTENEGRO	1
	POLAND	4
	ROMANIA	4
	RUSSIA	8
	SERBIA	4
SLOVAKIA	1	
SLOVENIA	2	
UKRAINE	5	
UZBEKISTAN	1	
<b>東欧・旧ソ連 集計</b>		<b>58</b>

地域	国名	集計
中東	BAHRAIN	1
	CYPRUS	2
	IRAN	9
	IRAQ	1
	ISRAEL	3
	JORDAN	6
	KUWAIT	1
	LEBANON	2
	PALESTINE	1
	QATAR	1
SAUDI ARABIA	4	
TURKEY	3	
UNITED ARAB EMIRATES	6	
YEMEN	1	
<b>中東 集計</b>		<b>41</b>
北米	CANADA	39
	USA	199
<b>北米 集計</b>		<b>238</b>
中米	BARBADOS	1
	BELIZE	3
	COSTA RICA	11
	CUBA	2
	DOMINICAN REPUBLIC	1
	EL SALVADOR	2
	GUATEMALA	3
	HONDURAS	3
	JAMAICA	3
	MEXICO	12
	NICARAGUA	1
	PANAMA	4
	PUERTO RICO	1
TRINIDAD AND TOBAGO	2	
TURKS AND CAICOS ISLANDS, W.I.	1	
US VIRGIN ISLANDS	1	
<b>中米 集計</b>		<b>51</b>
南米	ARGENTINA	13
	BOLIVIA	3
	BRAZIL	29
	CHILE	6
	COLOMBIA	22
	ECUADOR	8
	GUYANA	2
	PARAGUAY	3
	PERU	19
	SURINAME	1
URUGUAY	5	
VENEZUELA	4	
<b>南米 集計</b>		<b>115</b>

# 問1 人類存続の危機に対する認識—環境危機時計<sup>®</sup>

表1は地球環境の変化を示す項目です。地球全体の問題を念頭に置きながら、あなたがお住まいの国または地域における環境問題を考える上で重要な項目を3つ選んで1位～3位の順位付けをし、それぞれ時計の針に例えて0:10～12:00の範囲で〇〇時〇〇分と教えてください。時刻は便宜上、10分単位でご記入ください。その他の項目をご提案される場合には、「12. その他」の欄にご記入ください。

単位：％

1位項目	全体	アジア(全)							オセアニア			北米		中米	南米	西欧		アフリカ	中東	東欧・旧ソ連		
	[2081]	アジア地域(日、印、中、台、韓以外)	インド	中国	台湾	韓国	日本	オセアニア(オーストラリア以外)	オーストラリア	カナダ	米国			UK	西欧(UK以外)							
	[2081]	[1116]	[125]	[58]	[338]	[95]	[48]	[452]	[88]	[22]	[66]	[238]	[39]	[199]	[51]	[115]	[242]	[59]	[183]	[132]	[41]	[58]
1. 気候変動	37	38	38	22	17	40	52	53	41	23	47	51	51	51	29	21	33	39	32	30	22	22
2. 生物多様性	10	6	18	12	2	1	6	6	16	18	15	8	10	8	10	17	15	12	16	16	7	17
3. 土地利用	8	4	8	7	4	12	0	2	6	5	6	4	3	4	10	26	12	10	13	19	10	12
4. 環境汚染	12	18	3	10	42	24	13	6	5	9	3	4	5	4	6	8	5	3	5	6	5	9
5. 水資源	8	8	10	17	12	12	2	2	7	5	8	6	8	6	18	9	5	2	5	10	41	10
6. 人口	7	7	11	26	3	1	0	9	8	9	8	12	10	13	4	3	8	7	9	8	2	7
7. 食糧	2	3	1	0	5	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	0
8. ライフスタイル	4	3	0	0	4	1	21	3	2	5	2	4	3	5	8	5	10	12	9	2	0	5
9. 温暖化対策	3	4	5	0	4	0	2	5	0	0	0	1	0	2	6	0	1	2	1	0	2	0
10. 環境と経済	5	4	3	0	6	4	4	2	9	18	6	5	10	4	6	8	8	12	7	1	7	9
11. 環境と社会	3	3	2	3	1	5	0	4	2	0	3	2	0	3	2	1	1	0	2	4	2	7
12. その他	1	1	1	2	1	0	0	3	2	5	2	1	0	1	0	0	2	2	2	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	2	0	0	1	2	1	0	0	0	2	0	2
有効回答者ベース	[2055]	[1106]	[124]	[57]	[332]	[95]	[48]	[450]	[86]	[21]	[65]	[237]	[39]	[198]	[50]	[112]	[242]	[59]	[183]	[124]	[41]	[57]
1位時間	9:59	9:49	10:00	9:54	10:12	8:56	9:49	9:41	10:30	10:54	10:22	10:27	10:25	10:28	10:13	10:30	10:11	10:15	10:10	9:29	9:52	9:31

1. 気候変動.....大気中CO<sub>2</sub>濃度や海洋酸性度の増加 干ばつ、大雨・洪水、暴風雨、大雪、異常低温・高温、河川・湖沼の干上がり、砂漠化などの悪化(増加、頻発化、巨大化)
2. 生物多様性.....絶滅する生物種(見かけなくなった生物)の増加
3. 土地利用.....耕作地面積の増大 乱開発による森林破壊の拡大。過放牧による砂漠化や環境に配慮しない農業ないし土地利用の拡大 既存都市の拡大や新たな都市の発生
4. 環境汚染.....過剰な窒素やリン分による富栄養化や化学物質などによる河川・海洋・土壌汚染の増加。浮遊物質や煤、化学物質による大気汚染の増加
5. 水資源.....枯渇や汚染による利用可能な淡水の減少
6. 人口.....地域や国全体の人口増加。国全体の人口増減とは無関係な都市人口の増加
7. 食糧.....陸や海の水産資源の減少
8. ライフスタイル.....エネルギー・資源多消費型スタイルからの転換
9. 温暖化対策.....緩和策・適応策の進捗
10. 環境と経済.....環境コストの経済システムへの組込(化石燃料への課税など)やTEEB(生態系と生物多様性の経済学)の採用などの進捗  
グリーンエコミーの実現、持続可能な経済発展など、環境配慮型経済運営の進捗
11. 環境と社会.....環境問題に対する認識や環境教育の進展。貧困問題の解決

単位：％

2位項目	全体	アジア(全)							オセアニア			北米		中米	南米	西欧		アフリカ	中東	東欧・旧ソ連		
	[2081]	アジア地域(日、印、中、台、韓以外)	インド	中国	台湾	韓国	日本	オセアニア(オーストラリア以外)	オーストラリア	カナダ	米国			UK	西欧(UK以外)							
	[2081]	[1116]	[125]	[58]	[338]	[95]	[48]	[452]	[88]	[22]	[66]	[238]	[39]	[199]	[51]	[115]	[242]	[59]	[183]	[132]	[41]	[58]
1. 気候変動	14	14	14	9	13	15	17	15	17	14	18	18	15	19	14	14	13	10	14	14	7	9
2. 生物多様性	13	10	16	17	6	4	10	12	25	14	29	15	18	15	14	19	19	14	20	16	10	12
3. 土地利用	11	8	18	9	5	13	2	7	10	9	11	12	13	12	14	21	16	19	15	17	15	17
4. 環境汚染	13	16	18	28	22	24	21	9	5	9	3	7	8	7	12	8	12	8	13	5	20	17
5. 水資源	14	13	14	17	19	16	6	8	11	18	9	16	10	18	22	18	10	7	10	20	24	21
6. 人口	7	7	5	7	8	2	4	8	14	5	17	7	5	8	8	3	7	10	5	6	10	0
7. 食糧	4	6	2	3	6	4	4	7	0	0	0	0	0	1	4	2	1	0	1	5	5	2
8. ライフスタイル	6	7	1	5	4	6	25	8	2	5	2	5	3	6	4	3	9	12	8	4	5	2
9. 温暖化対策	5	6	2	0	5	4	0	10	6	5	6	4	3	5	0	3	2	2	2	2	2	3
10. 環境と経済	7	8	5	2	9	5	8	9	6	18	2	8	15	7	6	5	8	10	8	7	0	12
11. 環境と社会	4	4	4	2	4	6	2	4	2	0	3	5	8	4	2	4	4	8	3	3	2	3
12. その他	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3	1	0	0	1	0	1	1	0	0
無回答	1	0	0	2	0	0	0	0	2	5	2	1	0	1	2	1	0	0	0	2	0	2
有効回答者ベース	[2055]	[1104]	[124]	[56]	[331]	[95]	[48]	[450]	[86]	[21]	[65]	[236]	[39]	[197]	[50]	[113]	[242]	[59]	[183]	[126]	[41]	[57]
2位時間	9:10	8:57	9:18	8:55	9:09	8:17	9:01	8:50	9:58	9:59	9:58	9:49	9:37	9:51	9:30	9:35	9:26	9:41	9:21	8:43	8:52	8:29

3位項目

	全体	アジア(全)						オセアニア			北米			中米	南米	西欧			アフリカ	中東	東欧・旧ソ連	
	[2081]	[1116]	アジア地域(日、印、中、台、韓以外)	インド	中国	台湾	韓国	日本	オセアニア(オーストラリア以外)	オーストラリア		カナダ	米国				UK	西欧(UK以外)				
	[2081]	[1116]	[125]	[58]	[338]	[95]	[48]	[452]	[88]	[22]	[66]	[238]	[39]	[199]	[51]	[115]	[242]	[59]	[183]	[132]	[41]	[58]
1. 気候変動	11	10	10	16	14	12	6	6	10	14	9	8	10	8	10	14	12	15	10	19	12	12
2. 生物多様性	11	8	10	17	4	6	15	10	15	23	12	13	13	14	12	16	16	20	15	14	15	10
3. 土地利用	11	8	11	14	7	12	8	7	13	9	14	14	21	13	14	17	11	8	12	17	17	10
4. 環境汚染	10	11	14	7	9	12	17	11	11	18	9	10	10	10	8	7	10	7	11	6	10	7
5. 水資源	12	13	20	19	14	15	10	10	8	9	8	13	10	14	16	12	9	8	9	11	10	7
6. 人口	6	6	10	9	6	3	6	5	8	0	11	9	5	10	6	6	7	7	8	5	5	5
7. 食糧	6	7	2	2	8	6	2	9	2	9	0	3	3	3	8	2	2	3	2	9	5	7
8. ライフスタイル	7	7	5	2	6	4	13	9	5	0	6	7	10	6	6	6	11	8	11	2	5	10
9. 温暖化対策	4	5	0	3	7	7	0	6	6	0	8	3	5	3	2	2	3	5	3	1	5	0
10. 環境と経済	12	14	7	7	17	8	8	16	9	5	11	11	8	11	10	7	10	10	10	4	12	16
11. 環境と社会	9	9	9	3	7	15	13	10	9	9	9	8	5	8	8	8	7	7	7	9	2	12
12. その他	1	1	2	0	0	0	2	1	2	0	3	1	0	2	0	2	2	0	3	1	2	2
無回答	1	1	0	2	2	0	0	0	2	5	2	1	0	1	2	3	0	0	0	2	0	2
有効回答者ベース	[2044]	[1094]	[124]	[56]	[322]	[95]	[48]	[449]	[86]	[21]	[65]	[236]	[39]	[197]	[50]	[111]	[242]	[59]	[183]	[127]	[41]	[57]
3位時間	8:31	8:16	8:33	8:42	8:13	7:42	8:32	8:15	9:20	9:37	9:15	9:13	9:03	9:15	9:05	8:52	8:52	8:55	8:50	8:11	7:53	7:48

問2 地球環境問題に関するご意見

問2-1 問1で1位に選択した項目と最も密接に関連していると考えられる項目はどれですか。表1の項目1～12から1つお選び下さい。「12.その他」の場合には、回答欄に内容をご記入下さい。

環境危機時計<sup>®</sup>1位項目

1位項目と密接に関連する項目	全体	1.気候変動	2.生物多様性	3.土地利用	4.環境汚染	5.水資源	6.人口	7.食糧	8.ライフスタイル	9.温暖化対策	10.環境と経済	11.環境と社会	12.その他
	[1397]	[520]	[149]	[128]	[109]	[112]	[117]	[25]	[65]	[37]	[66]	[45]	[15]
1. 気候変動	9	0	11	8	11	26	13	24	15	51	9	9	13
2. 生物多様性	6	8	0	20	5	5	3	0	2	0	5	4	7
3. 土地利用	11	7	39	0	5	12	24	20	5	0	11	4	0
4. 環境汚染	6	8	2	4	0	17	5	4	8	0	8	2	7
5. 水資源	3	4	1	2	10	0	4	0	0	0	2	0	0
6. 人口	9	8	9	13	14	14	0	24	17	0	9	9	13
7. 食糧	3	2	1	3	4	4	10	0	6	0	2	0	0
8. ライフスタイル	12	13	6	11	11	3	9	8	0	19	26	33	27
9. 温暖化対策	10	26	0	1	0	1	1	0	3	0	0	2	0
10. 環境と経済	16	16	18	22	26	12	9	12	15	22	0	22	20
11. 環境と社会	9	6	7	13	10	4	17	8	17	8	24	0	13
12. その他	4	3	4	5	6	2	4	0	12	0	5	13	0
無回答	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。

単位：%

環境危機時計®  
1位項目

	全体 [1397]	アジア(全)							オセアニア			北米			中米 [42]	南米 [92]	西欧			アフリカ [92]	中東 [32]	東欧・ 旧ソ連 [42]
		アジア 地域(日、 印、中、 台、韓 以外) [84]	インド [36]	中国 [26]	台湾 [90]	韓国 [39]	日本 [406]	オセア ニア (オース トラリ ア以外) [19]	オース トラリ ア [45]	カナダ [24]	米国 [137]	UK [39]	西欧 (UK 以外) [152]									
1. 気候変動	37	44	31	22	12	41	46	51	33	21	38	48	50	48	21	21	27	33	26	26	22	21
2. 生物多様性	11	7	20	11	4	1	5	6	16	21	13	7	4	8	12	21	17	15	18	14	3	14
3. 土地利用	9	5	12	8	12	10	0	2	6	5	7	4	4	4	7	27	15	15	14	20	9	12
4. 環境汚染	8	10	5	6	38	23	15	6	5	11	2	4	4	4	7	7	6	5	6	9	6	7
5. 水資源	8	6	10	17	23	12	3	3	9	5	11	6	8	5	21	8	5	3	5	11	41	14
6. 人口	8	9	12	31	4	1	0	9	11	11	11	13	13	13	5	2	9	5	10	8	3	5
7. 食糧	2	3	1	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	4	0	0
8. ライフスタイル	5	4	0	0	0	1	23	3	3	5	2	5	4	5	10	5	10	8	11	1	0	5
9. 温暖化対策	3	4	6	0	0	0	3	6	0	0	0	2	0	2	5	0	1	0	1	0	3	0
10. 環境と経済	5	3	1	0	4	4	5	3	9	11	9	6	13	4	7	5	8	15	7	0	9	12
11. 環境と社会	3	4	1	3	4	6	0	4	3	0	4	2	0	2	2	1	2	0	2	5	3	7
12. その他	1	2	1	3	0	0	0	2	2	5	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。

単位：%

1位項目と密接に  
関連する項目

	全体 [1397]	アジア(全)							オセアニア			北米			中米 [42]	南米 [92]	西欧			アフリカ [92]	中東 [32]	東欧・ 旧ソ連 [42]
		アジア 地域(日、 印、中、 台、韓 以外) [84]	インド [36]	中国 [26]	台湾 [90]	韓国 [39]	日本 [406]	オセア ニア (オース トラリ ア以外) [19]	オース トラリ ア [45]	カナダ [24]	米国 [137]	UK [39]	西欧 (UK 以外) [152]									
1. 気候変動	9	9	12	0	8	18	10	7	9	0	13	10	8	10	14	9	6	3	7	17	9	10
2. 生物多様性	6	4	8	14	8	3	13	2	3	5	2	8	13	7	0	9	9	8	10	9	16	10
3. 土地利用	11	9	18	22	4	9	5	6	14	11	16	9	4	10	19	18	12	8	13	18	9	14
4. 環境汚染	6	7	2	22	8	16	13	4	6	11	4	5	8	4	10	3	7	3	8	0	3	21
5. 水資源	3	3	1	0	19	7	0	1	3	0	4	4	0	5	5	2	2	0	2	7	3	5
6. 人口	9	8	12	3	23	8	10	6	14	11	16	16	17	15	10	9	14	18	13	3	6	2
7. 食糧	3	4	2	0	4	3	0	5	0	0	0	1	0	1	2	1	2	3	2	7	3	0
8. ライフスタイル	12	13	6	3	8	9	26	16	5	0	7	11	21	9	12	10	12	26	8	8	16	5
9. 温暖化対策	10	15	4	6	0	7	3	22	13	5	16	3	0	4	5	5	7	8	7	5	9	0
10. 環境と経済	16	18	18	17	15	12	18	19	16	21	13	15	21	14	10	21	14	10	14	11	13	14
11. 環境と社会	9	8	8	14	0	9	3	9	13	37	2	9	4	10	7	9	11	10	11	8	9	12
12. その他	4	2	6	0	4	0	0	2	5	0	7	7	4	8	7	4	5	5	5	7	3	7
無回答	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。



問2-2 問2-1で密接に関係している項目を選択した理由に最も近い番号を表2から選んでご記入下さい。「12.その他」の場合には、理由をご記入下さい。

単位：%

選択した理由	1位項目	全体	1.気候変動	2.生物多様性	3.土地利用	4.環境汚染	5.水資源	6.人口	7.食糧	7.食糧	8.ライフスタイル	8.ライフスタイル	9.温暖化対策	10.環境と経済	11.環境と社会
	密接関係項目		9.温暖化対策	3.土地利用	10.環境と経済	10.環境と経済	1.気候変動	3.土地利用	1.気候変動	6.人口	6.人口	11.環境と社会	1.気候変動	8.ライフスタイル	8.ライフスタイル
		[391]	[135]	[58]	[28]	[28]	[29]	[28]	[6]	[6]	[11]	[11]	[19]	[17]	[15]
1.1位項目の原因になっている		42	50	45	54	57	41	7	100	83	27	36	21	29	7
2.1位項目の結果になっている		14	13	3	4	4	10	61	0	0	0	0	37	18	7
3.強く相互作用している		43	36	52	43	39	48	32	0	0	73	64	37	53	87
4.その他		1	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	5	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。

単位：%

選択した理由	全体	アジア(全)								オセアニア			北米		中米	南米	西欧			アフリカ	中東	東欧・旧ソ連
		アジア地域(日、印、中、台、韓以外)	インド	中国	台湾	韓国	日本	オセアニア(オーストラリア以外)	オーストラリア	カナダ	米国	UK	西欧(UK以外)									
														[1397]			[681]	[84]	[36]			
1.1位項目の原因になっている	40	43	35	22	50	28	38	50	30	26	31	38	38	38	43	45	41	51	39	37	22	24
2.1位項目の結果になっている	17	15	13	22	15	11	23	16	19	21	18	19	21	19	19	13	19	13	20	12	31	26
3.強く相互作用している	41	40	49	56	35	61	36	33	44	53	40	39	42	38	36	42	38	36	39	49	44	50
4.その他	2	1	2	0	0	0	3	1	6	0	9	3	0	4	2	0	1	0	1	2	3	0
無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。

問2-3 問1、2-1で選択した2つの項目に対し、これらを解決するためにはどの分野の対策が最も有効と考えられますか。表3から1つお選び下さい。また選択した理由または具体的な対策をご記入下さい。その他の分野をご提案される場合には、回答欄に分野と対策をご記入下さい。

単位：%

分野	1位項目	全体	1.気候変動	2.生物多様性	3.土地利用	4.環境汚染	5.水資源	6.人口	7.食糧	7.食糧	8.ライフスタイル	8.ライフスタイル	9.温暖化対策	10.環境と経済	11.環境と社会
	密接関係項目		9.温暖化対策	3.土地利用	10.環境と経済	10.環境と経済	1.気候変動	3.土地利用	1.気候変動	6.人口	6.人口	11.環境と社会	1.気候変動	8.ライフスタイル	8.ライフスタイル
		[391]	[135]	[58]	[28]	[28]	[29]	[28]	[6]	[6]	[11]	[11]	[19]	[17]	[15]
1.政治分野		26	36	28	7	18	28	18	33	33	9	0	37	12	13
2.経済分野		31	28	36	54	54	10	14	17	17	27	18	26	47	27
3.社会・教育分野		32	20	31	36	18	52	54	17	50	55	82	16	35	53
4.科学技術分野		9	14	3	0	7	10	7	33	0	0	0	21	6	7
5.その他		2	2	2	4	4	0	7	0	0	9	0	0	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。

単位：%

分野	全体	アジア(全)							オセアニア			北米		中米	南米	西欧		アフリカ	中東	東欧・旧ソ連		
		アジア地域(日、印、中、台、韓以外)	インド	中国	台湾	韓国	日本	オセアニア(オーストラリア以外)	オーストラリア	カナダ	米国	UK	西欧(UK以外)									
																[681]	[84]				[36]	[26]
1.政治分野	23	22	29	17	35	12	18	23	31	11	40	25	29	25	19	23	25	31	24	16	16	26
2.経済分野	28	26	20	22	27	21	26	28	19	26	16	25	33	24	40	34	31	33	30	28	38	29
3.社会・教育分野	37	36	42	58	27	46	56	30	36	58	27	38	29	39	26	40	35	31	36	50	41	36
4.科学技術分野	8	13	5	3	12	17	0	17	2	5	0	6	0	7	2	0	3	3	3	3	6	5
5.その他	4	3	5	0	0	3	0	3	11	0	16	6	8	5	12	3	6	3	7	2	0	5
無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0

※問1の1位項目と問2-1で、同じ項目を選択した回答者は集計ベースから除いています。

対象者属性

単位：%

勤務先

	全体 [2081]	アジア(全) [1116]						オセアニア [88]			北米 [238]			中米 [51]	南米 [115]	西欧 [242]			アフリカ [132]	中東 [41]	東欧・旧ソ連 [58]	
		アジア地域(日、印、中、台、韓以外) [125]	インド [58]	中国 [338]	台湾 [95]	韓国 [48]	日本 [452]	オセアニア(オーストラリア以外) [22]	オーストラリア [66]	カナダ [39]	米国 [199]	UK [59]	西欧(UK以外) [183]									
1.中央政府	6	4	10	10	2	16	4	1	11	9	12	7	13	6	20	9	2	3	2	7	10	12
2.地方自治体	6	8	2	2	8	19	4	8	3	5	3	3	10	1	6	4	2	0	3	2	10	2
3.大学・研究機関	35	34	30	29	20	28	6	50	41	36	42	37	26	39	24	39	39	36	40	30	39	45
4.NGO/NPO	22	16	41	41	6	15	73	8	27	41	23	23	15	24	31	33	30	25	32	39	27	33
5.企業	14	24	2	2	56	21	2	11	3	0	5	3	13	2	0	3	5	12	3	5	5	0
6.ジャーナリズム	2	1	0	3	0	0	0	2	1	0	2	11	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
7.その他	14	12	15	12	6	1	10	19	13	9	14	17	23	16	20	12	21	24	20	17	10	9
無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

単位：%

性別

	全体 [2081]	アジア(全) [1116]						オセアニア [88]			北米 [238]			中米 [51]	南米 [115]	西欧 [242]			アフリカ [132]	中東 [41]	東欧・旧ソ連 [58]	
		アジア地域(日、印、中、台、韓以外) [125]	インド [58]	中国 [338]	台湾 [95]	韓国 [48]	日本 [452]	オセアニア(オーストラリア以外) [22]	オーストラリア [66]	カナダ [39]	米国 [199]	UK [59]	西欧(UK以外) [183]									
男性	71	71	70	83	49	60	38	92	70	55	76	71	87	68	63	66	74	73	75	77	76	69
女性	28	29	29	17	50	40	63	8	30	45	24	29	13	32	35	34	25	27	25	21	24	31
無回答	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2	0	0

単位：%

年代

	全体 [2081]	アジア(全) [1116]						オセアニア [88]			北米 [238]			中米 [51]	南米 [115]	西欧 [242]			アフリカ [132]	中東 [41]	東欧・旧ソ連 [58]	
		アジア地域(日、印、中、台、韓以外) [125]	インド [58]	中国 [338]	台湾 [95]	韓国 [48]	日本 [452]	オセアニア(オーストラリア以外) [22]	オーストラリア [66]	カナダ [39]	米国 [199]	UK [59]	西欧(UK以外) [183]									
20代	11	17	3	5	41	31	27	1	6	14	3	3	3	4	8	2	3	3	3	4	5	9
30代	20	24	23	36	41	35	48	5	13	14	12	10	8	11	12	23	14	15	14	22	37	12
40代	21	17	35	16	13	19	10	14	22	32	18	18	15	18	22	29	29	32	28	36	27	24
50代	22	19	22	22	4	9	6	32	23	14	26	24	33	23	47	30	28	20	30	20	15	31
60代	18	16	12	14	1	4	8	33	25	18	27	28	33	27	10	12	19	19	19	12	10	17
70代以上	8	7	5	7	0	2	0	15	13	9	14	16	8	18	0	5	7	8	7	5	7	7
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0

有効回答／無回答 の定義

有効回答＝シングルアンサー、個数指定のリミテッドアンサーなどにおいて、制限内の回答数のものを有効とし、制限数オーバーの回答数のものを無効とした。  
無回答＝その設問に関して回答条件者にもかかわらず回答がなかった場合を無回答とした。

# V. 調査票

## 問 1 人類存続の危機に対する認識 - 環境危機時計<sup>®</sup>

表 1 は地球環境の変化を示す項目です。地球全体の問題を念頭に置きながら、あなたがお住まいの国または地域における環境問題を考える上で重要な項目を 3 つ選んで 1 位～3 位の順位付けをし、それぞれ時計の針に例えて 0:10～12:00 の範囲で〇〇時〇〇分と答えてください。時刻は便宜上、10 分単位でご記入下さい。その他の項目をご提案される場合には、「12. その他」の欄にご記入下さい。

----- 回答例 -----

項目番号	時刻		項目番号	時刻
1 位 ( 1 )	9 時 30 分		1 位 ( )	時 分
2 位 ( 5 )	7 時 40 分		2 位 ( )	時 分
3 位 ( 3 )	8 時 20 分		3 位 ( )	時 分

----- 回答欄 -----

### 危機時刻の決定法について

1 位から 3 位の時刻の加重平均 (1 位 : 50%、2 位 : 30%、3 位 : 20%) として環境危機時計<sup>®</sup>の時刻を決定します。回答例の場合、8 時 43 分となります。

表 1 地球環境の変化を示す項目

項目	あなたがお住まいの国または地域で観察されること (例)
1. 気候変動	大気中 CO <sub>2</sub> 濃度や海洋酸性度の増加 干ばつ、大雨・洪水、暴風雨、大雪、異常低温・高温、河川・湖沼の干上がり、砂漠化などの悪化 (増加、頻発化、巨大化)
2. 生物多様性	絶滅する生物種 (見かけなくなった生物) の増加
3. 土地利用	耕作地面積の増大 乱開発による森林破壊の拡大 過放牧による砂漠化や環境に配慮しない農業ないし土地利用の拡大 既存都市の拡大や新たな都市の発生
4. 環境汚染	過剰な窒素やリン分による富栄養化や化学物質などによる河川・海洋・土壌汚染の増加 浮遊物質や煤、化学物質による大気汚染の増加
5. 水資源	枯渇や汚染による利用可能な淡水の減少
6. 人口	地域や国全体の人口増加 国全体の人口増減とは無関係な都市人口の増加
7. 食糧	陸や海の食糧資源の減少
8. ライフスタイル	エネルギー・資源多消費型スタイルからの転換
9. 温暖化対策	緩和策・適応策の進捗
10. 環境と経済	環境コストの経済システムへの組込 (化石燃料への課税など) や TEEB (生態系と生物多様性の経済学) の採用などの進捗 グリーンエコノミーの実現、持続可能な経済発展など、環境配慮型経済運営の進捗
11. 環境と社会	環境問題に対する認識や環境教育の進展 貧困問題の解決
12. その他 *	( )

\* 上の欄に新たな項目をご記入下さい

## 問2 地球環境問題に関するご意見

2-1 問1で1位に選択した項目と最も密接に関係していると考えられる項目はどれですか。表1の項目1～12から1つお選び下さい。「12. その他」の場合には、回答欄に内容をご記入下さい。

1位の項目と密接に関係する項目（ ）

「12. その他」の内容

---

2-2 2-1で密接に関係している項目を選択した理由に近い番号を表2から1つ選んでご記入下さい。「4. その他」の場合には、理由をご記入下さい。

表2 問2-1の項目を選択した理由

番号	選択した理由
1	1位の項目の原因になっている
2	1位の項目の結果になっている
3	強く相互作用している
4	その他(回答欄にご記入ください)

選択した理由（ ）

「4. その他」の理由

---

2-3 問1、2-1で選択した2つの項目に対し、これらを解決するためにはどの分野の対策が最も有効と考えられますか。表3から1つお選び下さい。また選択した理由または具体的な対策をご記入下さい。その他の分野をご提案される場合には、回答欄に分野と対策をご記入下さい。

表3 地球環境問題の施策

分野	具体的な対策(例)
1. 政治分野	国際協力活動 貧富の格差解消などの政策
2. 経済分野	持続的発展かつ地球環境を考慮した経済政策
3. 社会・教育分野	環境問題の教育または啓蒙 環境問題への意識向上 ライフスタイルの変更 環境保護活動などの実践的な活動
4. 科学技術分野	地球環境問題についての理論の発展 環境問題解決へ向けての科学的な指針の構築 省エネルギー技術の発展
5. その他	(回答欄に分野と対策をご記入ください)

分野（ ）

選択した理由または具体的な対策（「5. その他」の場合は分野と対策）

---

---

次頁に続く

問 3 その他、環境問題に関するご意見を自由にご記入下さい。

---

---

---

第 24 回 地球環境問題と人類の存続に関するアンケート  
調査報告書

---

発行日 2015 年 9 月  
制作・発行 公益財団法人 旭硝子財団  
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3  
サイエンスプラザ 2F  
TEL (03)5275-0620 FAX (03)5275-0871

\*本報告書に関するお問い合わせは  
当財団（担当：安田、鈴木）まで  
ご連絡下さい。



公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2F

Phone 03-5275-0620 Fax 03-5275-0871

E-Mail [post@af-info.or.jp](mailto:post@af-info.or.jp)

URL <http://www.af-info.or.jp>